

問題1

今回のテーマは「家康公と戦国大名たち」です。
次の戦国大名(武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、
徳川家康)たちの像のなかで、駿府城公園に建つ
家康公の像はどれでしょうか?

- (1) 
- (2) 
- (3) 
- (4) 

解説

家康公に深く関わった大名たちですね。

(1)は織田信長、岐阜市の駅前に建っています。家康公とは同盟関係を20年余り続け、ともに天下統一への道を歩みました。(2)は武田信玄、甲府駅前に建っています。「三万ヶ原の戦い」で大敗を喫しましたが、家康公自身は学ぶことも多くあったようです。(3)は家康公、この像は駿府城公園に建っています。(4)は豊臣秀吉、この像は京都の豊国神社に建っているものです。天下人秀吉を強力に支えたのが家康公でした。

解答… (3)

問題2

次のなかで、家康公が用いた「三つ葉葵」の紋はどれでしょうか?

- (1) 
- (2) 
- (3) 
- (4) 

解説

武将たちの家紋は、知っておくと様々な合戦屏風などをより興味深く鑑賞することができます。(1)の家紋は「柏」の一種で、葉が細いのが特徴。「土佐柏」とも呼ばれ、山内一豊が使用した家紋です。(2)は三つ葉葵紋。言うまでもなく徳川氏の家紋ですが、将軍家でも代が変わるとデザインを変えることもありました。さらには御三家などもそれぞれ葵のデザインが異なります。(3)は「片喰」紋、家臣団筆頭の酒井家の家紋です。葵紋によく似ていることから、三つ葉葵の元になっているのではという説も存在します。(4)は「三つ鱗」紋、後北条氏の家紋です。由来は三方向を向いた龍の鱗を意味するとか。詳しく調べてみるのも興味深いですね。



織田信長の「木瓜」紋と豊臣秀吉の「太閤桐」紋

解答… (2)

問題3

次のなかで、家康公が旗印に用いた文字は何で
しょうか？

- (1) 厥離穢土 欣求淨土
(2) 八幡大菩薩
(3) 疾如風 徐如林 侵掠如火 不動如山
(4) 龍

解説

「桶狭間の戦い」で今川氏が敗れると、前線の大高城にいた家康公は僅かな家臣たちとともに岡崎の大樹寺に逃げ込みました。さらに敵兵たちに囲まれると先祖の墓前で自決を決意した家康公でしたが、そこに現れた登譽上人が「厭離穢土、欣求淨土」の法語を授け、平和のために戦う意義を見出させたとされています。家康公は生涯この言葉を記した旗印を掲げ戦ったと伝えられます。江戸時代の史料には「厭離穢土欣求淨土三題」として、上記の説の他、大樹寺開基の松平親忠が開山の勢譽愚底から授けられたとする説、三河一向一揆の際、家康公側の登譽上人が掲げたとする説が記されています。



登譽上人木像／
大樹寺(愛知県岡崎市)

解答… (1)

問題4

室町幕府が權威を失い、戦国時代のきっかけと
なった乱を何というでしょうか？

- (1) 応仁の乱
(2) 島原の乱
(3) 平将門の乱
(4) 保元の乱

解説

応仁元年(1467)から文明9年(1477)まで
の11年間、管領 細川勝元の東軍と山名宗
全の西軍が戦った内乱。京都が主戦場となりました。
元号をとり「応仁の乱」とも「応仁・文明の乱」とも言
われます。八代将軍に就任した足利義政は幕府と將
軍権力の強化をめざしますが、周囲の者たちは言
ふことを聞かず、政治は混乱し社会不安が増大しまし
た。そんななか、義政の後継者を巡って細川勝元と
山名宗全とが対立したのです。この対立は同じく管
領職にあった畠山・斯波両家の家督争い、また地方
の守護や在地
武士の利害関
係とが結びつ
いて一層深ま
り、京都市中
で始まった戦
いは全国に波
及していきま
した。



「応仁の乱」勃発地の碑／上御靈神社(京都市上京区)

解答… (1)

問題5

みぶん
下の身分の者が上の身分の者を実力で倒して権力を奪う行為を何というでしょうか？

- (1) 捲土重来 (2) 卧薪嘗胆
(3) 下剋上 (4) 反乱

解説

下剋上という言葉は、権威のある者に対して下の者が武力行使などにより権力を奪取する行為を指します。これは戦国時代に始まった風潮ではなく、既に中世の初期から見られた社会現象でもありました。楠木正成なども時の権力と戦い「悪党」とも呼ばれていたのですが、これも下剋上の行為であったと考えられます。戦国時代にはこれまでの既得権益者であった守護大名が、近隣の地頭によって浸食される例も多く、さらには家臣の反逆によって身分秩序が崩壊することも多く見られるようになりました。美濃の斎藤道三や尾張の織田信長などがその代表例です。



斎藤道三、織田信長が居城とした岐阜城。斎藤道三の頃は稲葉山城と呼ばれました。
(岐阜県岐阜市)

解答… (3)

問題6

てんぶん
天文11年(1542)12月26日の午前4時頃、家康公が誕生しました。家康公は〇年の〇の日、〇の刻に生まれたと伝わりますが、この〇にあてはまる十二支は何でしょうか？

- (1) 卯 (2) 午 (3) 辰 (4) 寅

解説

天文11年(1542)12月26日が家康公の生誕の日とされています。寅年、寅の日、そして寅の刻に生まれたということで、縁起の良い「三寅」に当たるとされています。ところが、慶長8年(1603)、征夷大将軍任官にあたって行われた天曹地府祭(陰陽道で行われる祭祀)の都状(願文)に「六十歳癸卯家康」と記していることから、本当は天文12年生まれの卯年ではないかという説が存在します。ただ、陰陽道関係の願文であることから、実際の暦月と異なつて、立春をもって正月とする節月を採用、天文11年は12月21日に立春を迎えていたことから、26日に生まれた家康公は暦月では寅年、節月では卯年生まれとなり、陰陽道に関する文書では卯年として扱われたとする説もあります。



寅年の守護神「真達羅大将」/鳳来寺(愛知県新城市)

解答… (4)

問題7

家康公が誕生したのは、三河国のどの城だったでしょうか？

- (1) 岩津城
(2) 牛久保城
(3) 岡崎城

- (4) 東条城

解説

家康公が生まれた城は「岡崎城」ですが、一生のうちに大きく関わった城についてざっと紹介しましょう。幼少のころから「駿府城(今川館)」の今川義元の許で成長し、「桶狭間の戦い」後に岡崎城主として戦国大名の仲間入りをすると、次は「浜松城」に移ります。その後は豊臣秀吉に臣従すると「駿府城」に移り、さらには秀吉のもとで重要な政務を担当するため、京都の「伏見城」に長く滞在します。関東移封後には「江戸城」を居城としますが、將軍を退くと再び「駿府城」に移りました。京都では朝廷の使いや諸大名との接見の場として「二条城」を築城、豊臣秀頼との接見もこの城で行いました。これらの城巡りをしてみるのも一興ですね。



駿府城東御門(静岡市葵区)

解答… (3)

問題8

家康公が生まれた時期の松平氏の状況として正しいのはどれでしょうか？

- (1) 今川氏と織田氏の勢力が三河に押し寄せ、松平氏は存亡の危機に瀕していた。
(2) 岩津を本家とする松平一門が団結し、今川氏や織田氏の勢力からの独立を保っていた。
(3) 織田氏の保護のもと、松平氏は何とか存続していた。
(4) 松平氏を中心とした三河の国衆が今川氏に対して一斉に反旗を翻し、今川氏の勢力を三河から追い出した。

解説

家康公が生まれた時期、三河岡崎城の松平氏は東の今川氏・西の織田氏の侵攻を受け、存亡の危機に瀕していました。家康公誕生 2 年前の天文 9 年(1540)には、かつて松平氏の居城であった安城城が織田信秀に奪われ、家康公の父 広忠は今川義元の後ろ盾なしでは家の存続が危うい状況だったのです。そんななか、家康公誕生の年(1542)と 6 年後の天文 17 年(1548)の 2 回にわたり、岡崎領内で織田・今川両軍がぶつかる「小豆坂の戦い」が勃発(1 回目はなかったとの説もあります)。決着は着かず、翌天文 18 年、広忠が岡崎城内で死去すると今川軍は同年、遂に安城城を攻略。11 年後の「桶狭間の戦い」まで家康公を人質とし、三河を支配下に置きました。

小豆坂古戦場の碑
(愛知県岡崎市)

解答… (1)

問題9

松平家の嫡男として誕生した家康公に付けられた幼名は何でしょうか？

- (1) 犬千代
(2) 仙千代
(3) 竹千代

- (4) 松千代

解説

家康公の幼名は竹千代で、元服して元信・元康・家康と改名しています。家康公が幼少期に学問を修めたとされる法藏寺(岡崎市)には、家康公ゆかりの品々が伝来し、中でも「渡唐天神像」(市指定文化財)には、「松 竹千代」と記されていて、幼少の家康公自筆と伝わります。

犬千代は加賀百万石の祖、前田利家。仙千代は家康公の八男(母は相応院・お龜)。松千代も家康公の七男(母は茶阿局)の幼名です。

江戸時代において竹千代という名は、徳川将軍家嫡男の幼名として受け継がれてきました。



岡崎城公園内に置かれた竹千代 像(愛知県岡崎市)



解答… (3)

問題10

家康公が3歳のとき、父 広忠から離縁された母の名前は何でしょうか？

- (1) 於愛
(2) 於大
(3) 於富
(4) 於波留

解説

於大の方は享禄元年(1528)、水野家当主水野忠政と於富の娘として誕生しました。5歳頃まで緒川城(愛知県東浦町)に住み、天文2年(1533)忠政が刈谷城(愛知県刈谷市)を築城すると刈谷に移ったとされています。14歳で岡崎城主松平広忠に嫁ぎ、翌年、家康公が誕生しました。しかし、水野家と松平家を取り巻く情勢の変化により、家康公が3歳の時に広忠から離縁され、水野家へ帰されました。以降、遠く離れた我が家子を常に気遣い、折に触れて贈り物をしたと伝わっています。家康公と同じ75年の天寿を全うし、家康公の母でありながらも、実像が謎に包まれていることは興味深いことです。



於大の像／椎の木屋敷跡(愛知県刈谷市)

解答… (2)

問題11

家康公が6歳のとき、人質に出されたのはどの戦国大名のところでしょうか？

- (1) 上杉謙信 (2) 織田信秀
(3) 斎藤道三 (4) 武田信虎

解説

通説では、家康公は6歳のときに織田家(尾張)へ人質に出されました。そこには竹千代寓居(仮住まい)跡(名古屋市熱田区)など家康公が尾張にいた痕跡もみられます。人質に出された際の尾張の戦国大名は織田信秀(信長の父)でした。信秀は織田家の庶流の重臣であったにもかかわらず、次第に勢力を拡大して織田一族の中心的な存在となりました。信秀が尾張で勢力を伸張できたのは、金銀・物資の流通のみならず、京文化も流入していた津島湊(愛知県津島市)を掌握し、その富を利用したことになります。これが信長に受け継がれ、後の躍進につながったのは言うまでもありません。



織田信秀の居城 勝幡城跡の碑(愛知県稻沢市)

問題12

家康公は8歳のとき、人質交換で今川義元の許に改めて人質に出されました。家康公が今川家の入質時代を過ごした場所はどこでしょうか？

- (1) 尾張 熱田
(2) 相模 小田原
(3) 駿河 駿府
(4) 遠江 掛川

解説

家康公は、「安城合戦」で今川軍に捕縛された織田信広(信長の庶兄)との人質交換で、織田家から今川家の本拠である駿河 駿府に送されました。その駿府では多くの家臣が付き添い、祖母の華陽院や今川家の軍師 太原雪斎より教育を受けたと伝わっています。そして弘治2年(1556)頃には今川一門の関口氏純の娘 築山殿と結婚しました。これらのことからも、家康公は人質とはいえ、松平家当主としての扱いを受け、将来は今川親族衆の柱石に成長することを期待されていたと思われます。今川義元が幼い家康公を駿府に置いたのは、敵との最前線である岡崎に置くことを危ぶんだ処置であったとも考えられます。



華陽院(源応尼)の墓(静岡市葵区)

問題13

天文24年(1555)、14歳を迎えた家康公は元服し、今川義元から一字をもらって名を改めました。家康公の元服後の名前は何でしょうか？

- (1) 義信 (2) 信義 (3) 元信 (4) 信元

解説

元服とは、くげ公家や武家などの男子が行う現代の成人式にあたるものです。14歳となつた竹千代(家康公)は駿府にてこの式に臨みました。のぞ鳥帽子親を務めた今川義元から「元」の一字を賜り、改名した名は「元信」です。正しくは松平当主の通称でもあった「次郎三郎」を付け、松平次郎三郎元信と名乗りました。寺領を安堵し、諸役不入などを確認した高隆寺(愛知県岡崎市)宛ての文書が、この元信時代に発給した現存する唯一のものとなります。

この文書に花押も据え
ており、家康公の花押としては初見のもので大変貴重とされています。



家康公が元服の式を挙げた浅間神社(静岡市葵区)

解答… (3)

問題14

人質時代の家康公の師匠(教育係)として、青少年期の家康公に大きな影響を与えたといわれる今川家の重臣はだれでしょうか？

- (1) 井伊直親 (2) 玄広恵探 (3) 関口氏純 (4) 太原雪斎

解説

太原雪斎は今川家の内政・外交・軍事に関わり、若き日の今川義元の教育も行った名僧であり執政であり軍師であるという、今川家の屋台骨を支えた傑出した人物でした。今川家と長年抗争が続いていた隣国の強国、武田・北条との甲相駿三国同盟を締結に導いた功績は計り知れないものといえるでしょう。また、雪斎は「桶狭間の戦い」の5年前に亡くなっていますが、もし長生きしていれば今川家の歴史がどう変わっていたか、妄想するのも歴史の醍醐味です。このような優れた人物から教えを受けることができたといわれる家康公は、将来を有希望された優秀な子供であったことがうかがえます。



太原雪斎 像／臨済寺(静岡市葵区)

解答… (4)

問題15

家康公は17歳の初陣の頃、武勇に優れた祖父 清康にあやかり改名しています。家康公が新たに名乗った名前は何でしょうか？

(1) 義清 (2) 義康 (3) 元清 (4) 元康

解説

「清康が30のおん年までも生きておられたら、天下を簡単に手に入れられたであろうが……」大久保彦左衛門忠教が著した『三河物語』に記された一文です。清康は、松平三代 信光の子、親忠を初代とする安城松平家の四代目で、大永3年(1523)に13歳で家督を継ぐと、翌年には岡崎に進出、岡崎城を拠点に享禄2年(1529年)には19歳で三河一国を平定しました。「この君はご武芸とお慈悲、お情けをもって歴代の当主にも優れておられたから、天下を掌中にするのも目前であった」と『三河物語』は清康を絶賛しています。家康公は初陣にあたり、敬愛する祖父 清康の武勇にあやかろうと、元信から元康と名を改めました。



天文4年(1535)、松平清康によって建立された多宝塔(大樹寺／愛知県岡崎市)

解答… (4)

問題16

家康公の初陣と伝わるのはどの合戦でしょうか？

(1) 尾張 桶狭間の戦い
(2) 駿河 薩埵峠の戦い
(3) 三河 寺部城攻め
(4) 東三河 田原城攻め

解説

家康公の初陣は永禄元年(1558)の「寺部城(豊田市)攻め」で、鈴木(鱸)氏を攻め、勝利を得たと伝わります。しかし近年では、それ以前の弘治2年(1556)の「日近合戦」が初陣であるとする説が唱えられています。「日近合戦」では家康公の名代として出陣した青野(東条)松平忠茂が戦死しており、家康公方の敗北でした。初陣が敗北という汚名は抹消され、「寺部城攻め」が初陣とされたとも考えられます。選択肢の合戦を年代順に並べると、(3)→(1)→(4)→(2)となります。家康公が自立し東に勢力を拡大したことを念頭に置けば、自ずと答えにたどり着けたでしょうか。なお、「桶狭間の戦い」における大高城兵糧入れが、本多忠勝の初陣と伝わります。



寺部城址の碑(愛知県豊田市)

解答… (3)

問題17

今川家での人質時代の家康公の出来事として誤っているのはどれでしょうか？

- (1) 母方の祖母である源応尼(於富、華陽院)の養育を受けた。
- (2) 元服の際には国主である今川義元が烏帽子親(後見人)を務めた。
- (3) 関口氏の娘(瀬名姫・築山殿)と結婚した。
- (4) 武田家から今川家に人質に出されていた武田勝頼と親交をもった。

解説

家康公が今川家の人質として駿府で過ごしていたころ、同じく人質として駿府にいたのは武田信玄の四男 勝頼ではなく、小田原 北条氏康の四男 氏規でした。その縁もあってか、後に氏規は北条家と家康公との交渉窓口を務めています。天正18年(1590)、秀吉の「小田原攻め」の際には、家康公らの説得により守衛する垂山城を開城し、戦後、北条氏直に従い高野山で蟄居となりました。その後、赦された氏規は狭山(大阪府大阪狭山市)城主となり、子孫は狭山藩主として明治維新まで存続しました。子どもの頃の家康公との縁が氏規のその後を左右した側面もあるでしょう。どんなご縁も大切にしたいものです。



狭山藩陣屋跡の石碑
(大阪府大阪狭山市)

解答… (4)

問題18

三河国を挟む東西の戦国大名が「桶狭間」でぶつかります。このとき、先鋒として家康公が兵糧入れを行った今川方の最前線の城はどこでしょうか？

- (1) 大高城
- (2) 岱掛城
- (3) 寺部城
- (4) 鳴海城

解説

家康公は今川方の最前線となっていた大高城(名古屋市緑区)への兵糧入れを遂行し、城将の鶴殿長照と交代で大高城を守りました。ここで今川義元討死の報に接することになります。岱掛城(愛知県豊明市)は義元が「桶狭間の戦い」前夜に軍議を開き宿泊した城です。寺部城は鈴木(鱸)氏が拠点とし、家康公が初陣で勝利を飾ったとされる戦いの舞台ともなりました。なお愛知県西尾市にも幡豆小笠原氏が治めた寺部城があります。鳴海城(名古屋市緑区)は「桶狭間の戦い」以前から今川方の岡部元信が守る城で、義元死後も織田方に抗戦を続け、義元の首を受け取ることを条件に開城しました。



大高城址(名古屋市緑区)

解答… (1)

問題19

「桶狭間の戦い」が終わり、今川義元の討ち死にを知らずに前間の城で留まっていた家康公に対し、撤退を勧める使者を送った織田方の武将(家康公の母の兄)はだれでしょうか?

- (1) 鶴殿長照
(2) 佐久間盛重
(3) 戸田宗光
(4) 水野信元

解説

家康公の伯父 水野信元も、近年評価が大きく変化してきている人物です。信元は織田方に仕える国衆ですが、要所要所で甥の家康公の力になっています。「桶狭間の戦い」で信元が家康公に使者を遣わして、義元の死を報せたのは有名です。一方で永禄4年(1561)に家康公は石ヶ瀬(愛知県大府市)で信元と争ったと伝わりますが、これを疑問視する見解が出されています。また家康公の三大危機のひとつとされる三河一向一揆では、信元の働きにより一揆が収束に向かったと評価されています。しかしその活躍は意図的に抹消された部分もあり、全容はまだ見えません。戦国時代の三河を解明していく上で、重要なカギを握る人物といえるでしょう。



水野信元の菩提寺 楞巖寺(愛知県刈谷市)

解答… (4)

問題20

「桶狭間」から岡崎の大樹寺に撤退した家康公でしたが、敵兵に寺を囲されます。このとき、家康公を救った大樹寺の僧兵のなかで、70人力と呼ばれる怪力の祖洞和尚が武器としたものは何だったでしょうか?

- (1) 鐘楼の鐘突き棒
(2) 仏像の錫杖
(3) 墓地の墓石
(4) 門のかんぬき

解説

松平家の菩提寺である大樹寺の僧たちは、家康公を守るため、戦うことを決します。勇んだ家康公は、門のかんぬきを2度切りつけたといいます。なかでも、70人力と称された祖洞和尚は、門のかんぬきを引き抜くと振り回して奮戦し、敵を追い払いました。後にこのかんぬきは、徳川氏開運の奇端として祀られ、「貫木神」として今に伝えられています。

後の天正2年(1574)、家康公は祖洞(貞誉了伝)和尚のために駿府に西福寺を、そして慶長13年(1608)には、江戸に松平西福寺を建立して開山となし、旧恩に報いています。



祖洞に収められ、「貫木神」として祀られた“かんぬき”/大樹寺(愛知県岡崎市)

解答… (4)

問題21

岡崎城に入り、三河の統一を目指す家康公は「藤波畷の戦い」(愛知県西尾市)に勝利し、今川方の東条城主を降伏させました。足利一門の名家である東条城主はだれだったでしょうか？

- (1) 一色義定 (2) 吉良義昭 (3) 仁木高長 (4) 細川成之

解説

家康公による西三河平定戦の中心は、西三河南部(現在の西尾市)を中心に支配していた名門 吉良氏との戦いでした。東条城を本拠地とした吉良義昭は、永禄4年(1561)4月の「善明堤の戦い」において深溝松平好景を討ち取りました。設楽の富永氏の一族とされる重臣 富永伴五郎忠元の活躍もありました。義昭は、続く同年9月に起こった「藤波畷の戦い」の敗戦の後、東条城を明け渡しましたが、これには、伴五郎忠元が討死したことで降伏したという言い伝えもあります。享保2(1717)年、藤波畷の戦場跡には、忠元を偲び伴五郎地蔵が建立されました。



富永伴五郎忠元が討ち死にした場所に建つ
伴五郎地蔵の祠／藤波畷古戦場(愛知県西尾市)

解答… (2)

問題22

永禄5年(1562)、家康公は今川方の「上ノ郷城攻め(愛知県蒲郡市)」で城主の息子2人を生け捕り、今川家で人質になっていた家族と人質交換を行いました。このとき、討ち死にした上ノ郷城主はだれでしょうか？

- (1) 朝比奈泰朝 (2) 飯尾連龍 (3) 鵜殿長照 (4) 岡部元信

解説

紀伊半島の熊野新宮から移り住んだ鵜殿氏によって築かれた上ノ郷城は、東西三河の接点にあり、交通の要衝に位置する重要な拠点でした。地域豪族である鵜殿氏の存在と上ノ郷城の重要性を認識していた今川義元は、鵜殿長持に妹を嫁すなどして一門に取り込み、三河の支配を円滑に進めていきました。その長持の息子である長照は今川義元の甥にあたるため、義元や嫡男の氏真から重要な一門衆として扱われていました。家康公による上ノ郷城攻めですが、堅固な城であったことから、忍者(甲賀衆・伊賀衆)を用いて城中を混乱させたのち、攻め落としたという伝承が残ります。



上ノ郷城跡(愛知県蒲郡市)

解答… (3)

問題23

こうりやく
攻略した上ノ郷城を、家康公は母の再婚した夫に与えました。家康公の義理の父にあたる武将はだれでしょうか？

- (1) 酒井正親
(2) 戸田忠次
(3) 久松俊勝
(4) 松平伊忠

解説

家康公は、鵜殿氏を攻略して手に入れた上ノ郷城と西郡(蒲郡市)の地を、母の再婚相手である義父 久松俊勝に与えました。三河湾に面したこの地は、陸路・海路における重要な地であったため、信頼のおける一門衆を配置したでしょう。その後、上ノ郷城支配は息子の康元(家康公の異父弟)に引き継がれます。この久松(松平)氏による上ノ郷城支配は、久松氏が家康公の関東移封に従い関東に移住し、下総国関宿(千葉県野田市)城主になるまで続きます。その後、上ノ郷城は廃城になりました。蒲郡市清田町にある浄土宗安楽寺は俊勝の菩提寺であり、境内には俊勝の墓塔が築かれています。



久松利勝宝篋印塔／安楽寺(蒲郡市)

問題24

えいろく
永禄6年(1563)、「三河一向一揆」が勃発します。家康公の家臣のなかには一揆を起こした浄土真宗本願寺派の信者が多く、家臣を二分する戦いとなりましたが、次のなかで、一揆方に付いた家臣はだれでしょうか？

- (1) 石川数正
(2) 大久保忠世
(3) 本多忠勝
(4) 本多正信

解説

三河の地は浄土教団の強い土地柄ですが、真宗は本願寺蓮如による三河布教もあり、寺院勢力を伸ばしました。そのなかで、本願寺との強固な縁を持ち、三河本願寺教団の中心となったのが、土呂本宗寺であり、佐々木上宮寺、針崎勝鬘寺、野寺本證寺・三河三ヶ寺でした。これら寺院を支えた三河真宗門徒の代表格が、石川氏や本多氏を始めとする在地領主たちでした。松平家の譜代家臣でもある彼らは忠義と信仰の狭間で迷い、苦悩したことでしょう。

後の家康公の参考
本多正信は一揆方に身を置き、鎮圧後は三河を出奔しています。



三河本願寺教団の中心寺院 本宗寺(岡崎市)

問題25

永禄11年(1568)、織田信長が上洛するまで京・大坂を中心とした畿内で樹立されていたといわれる政権はどれでしょうか？

- (1) 朝倉政権 (2) 大内政権
(3) 三好政権 (4) 六角政権

解説

細川京兆家 細川晴元の家臣であった三好長慶は、主君 晴元を失脚させ、晴元と連携していた将軍 足利義輝を京都から追い出し、畿内の霸権を握りました。足利義輝とは和睦・抗争を繰り返しましたが、これまでの管領家等が、自分たちに都合の良い将軍の廢立を繰り返していたのとは異なり、支配に将軍権威を必要としなかったため、新たな将軍を擁立することもしませんでした。実力で京都を支配し、天下(畿内)を治め天下人となつたのです。また、本拠地も京都内には置かず、摂津国に芥川山城(大阪府高槻市)そして飯盛山城(大阪府大東市、四条畷市)を築き、畿内支配、天下静謐の拠点としました。



三好長慶 像／三好氏の菩提寺 南宗寺
(大阪府堺市)

解答… (3)

問題26

ようりつ 織田信長が擁立した室町幕府最後の将軍はだれでしょうか？

- (1) 足利義昭 (2) 足利義輝
(3) 足利義栄 (4) 足利義政

解説

室町幕府十三代将軍 足利義輝の弟である足利義昭は、当初は覺慶と名乗り、奈良興福寺一乘院の門跡を継いでいました。義輝が「永禄の変」で殺害された後、奈良から逃げ延び、還俗して義秋(昭)と名乗ります。兄の跡を継ぎ将軍就任を目指した義昭は、朝倉義景、そして織田信長を頼り、上洛を果たします。義昭は家康公へも上洛、従軍要請を行っており、家康公は要請に応じる返事をしています。三好義継(長慶の養子で後継者)に擁立されていた十四代将軍 足利義栄は信長に追われ、京都から阿波へ落ち延び、そこで亡くなりました。義昭は信長によって擁立され、朝廷より十五代将軍の宣下を受け、従四位下、参議・左近衛権中将に昇叙・任官されました。



足利義昭 像(古画類聚)
出典: ウィキメディア・コモンズ

解答… (1)

問題27

永禄11年(1568)、遠江に侵攻した家康公が、今川義元の嫡男 氏真と直接対決したのはどこの城でしょうか？

- (1) 掛川城 (2) 駿府城
(3) 鬼馬城 (4) 吉田城

解説

武田信玄に駿府を追われた今川氏真は、最後の砦であった掛川城に逃げ込みます。氏真を戴く掛川城の士気は高く、攻め落とすことが出来なかった家康公は、氏真や今川家臣団に対して調略を行い、懐柔していきます。氏真に対しては、信玄を追い払い、駿府へ戻すという条件を提案したようです。いずれにしても和議の交渉は進み、掛川城は開城し、氏真は北条家の庇護下に入ります。これにより戦国大名 今川氏は滅亡しました。徳川と北条・今川との間で結ばれた和議に対して、家康公と協同して今川領を攻めていた武田信玄はひどく怒り、その不審な行動に対して、信長の見解を求めていました。どうやら、この頃の家康公は、信玄からは、信長の配下として見られていたようです。



掛川城(静岡県掛川市)

問題28

遠江を制圧した家康公は、元亀元年(1570)、新たな本拠地に移り、地名を浜松と改称しました。浜松の元の地名は何だったでしょうか？

- (1) 引佐 (2) 浜名
(3) 鬼馬(引間) (4) 見付

解説

当初、家康公は遠江支配の拠点として、見付に城を立てる計画でした。この見付ですが、古代には国府、中世には守護所が築かれ、また、近世には東海道見付宿が設置されるなど、遠江国の大変重要な場所でした。それゆえに家康公も、この地への築城を考えたのですが、対武田戦略を考えた際、天竜川を背にする危険性、また大河があることで川の西側との連携がとりにくくなるなどの理由から、見付はあきらめ、飯尾氏の居城であった鬼馬城の位置を選びました。その際、鬼馬では縁起が悪い(馬をひく：退却をイメージ)という理由もあり、この一帯の地名として使用されていた浜松を用いて、浜松城に改称しました。



浜松城(静岡県浜松市)

問題29

元亀元年(1570)、軍事同盟を結んだ織田信長からの要請により、家康公は初めて上洛し、足利將軍より「越前攻め」を命じられます。家康公が信長とともに討伐に向かった越前の戦国大名はだれでしょうか？

- (1) 朝倉義景
(2) 京極高次
(3) 畠山義慶

- (4) 前田利家

解説

朝倉氏は義景の父 孝景の頃に、越前一国を支配する戦国大名となり、一乗谷を拠点に勢力を広げました。もともと、奈良から脱出した足利義昭が頼ったのが朝倉義景でしたが、義昭は、望むような動きを見せなかつた義景をあきらめ、信長を頼ることになりました。義昭上洛後、天下静謐を目指し、各地の大名へ將軍の命による上洛を促します。この上洛の命を義景が拒否したため、「叛意あり」と解釈して、將軍の命で「越前攻め」が行なわれました。將軍への奉公のため信長の命で京都に上洛していた家康公は、4月、越前攻めに向かう3万の信長軍に従軍し、越前へ向かいました。



「越前攻め」の行軍の途中、信長軍が入城した若狭 国吉城跡(福井県美浜町)

解答… (1)

問題30

「越前攻め」の2ヶ月後、織田・徳川連合軍は近江で2人の戦国大名と戦いました(「姉川の戦い」)。ひとりは前問の戦国大名ですが、もうひとりの近江の戦国大名はだれでしょうか？

- (1) 浅井長政
(2) 松永久秀
(3) 三好義継

- (4) 六角義治

解説

北近江の戦国大名 京極氏の被官であつた浅井氏は、長政の祖父 亮政の代に国人一揆の盟主として頭角を現し、京極氏を支える国人衆となります。その後、父 久政の代に南近江の戦国大名 六角氏に敗れて従属し、勢力は縮小します。亮政の頃から、朝倉氏とは協力関係にあり、六角氏と争うたびに朝倉氏に協力を求めていたようです。長政が浅井家の家督を継いで以降、近江の覇権を六角氏と争うなかで、朝倉氏からは多大な支援を受けていたと言われ、朝倉氏とは従属関係にあったとも言われます。このような両家の関係性のなかにおいて、浅井長政は、足利義昭の命とはいえ、朝倉義景を討伐する義兄 信長に従うことが難しかったのでしょうか。



姉川古戦場跡の石碑(滋賀県長浜市)

解答… (1)

問題31

織田信長が、元亀2年(1571)9月に焼き討ちにした天台宗総本山は、次のどれでしょうか？

- (1) 高野山金剛峯寺 (2) 東叡山寛永寺
(3) 比叡山延暦寺 (4) 身延山久遠寺

解説

比叡山は、京都の鬼門である北東の方向に位置します。平安時代、最澄によって延暦寺が開かれ、天台宗の総本山として数多くの名僧を輩出してきました。一方、宗門内部の対立から武装化した法師が生まれ、それが僧兵となって力を振るうようになったのです。元亀2年(1571)、織田信長に敵対する浅井・朝倉連合軍を匿ったことから信長に根本中堂と大講堂が焼き討ちにあったとされています。京都からも炎上の様子がよく見え、イエズス会の記録などにもその模様が残されています。信長の死後、延暦寺の復興が進められました。現在の根本中堂は、三代将軍 家光の時代に天海が主導して再建したものです。



延暦寺根本中堂(滋賀県大津市)

解答… (3)

問題32

元亀3年(1572)12月、武田信玄率いる大軍が徳川領内に侵攻しました。家康公が信玄に大敗した戦いは次のうちのどれでしょうか？

- (1) 小豆坂の戦い (2) 黒駒の合戦
(3) 天目山の戦い (4) 三方ヶ原の戦い

解説

数多くの合戦を経験した家康公ですが、31歳の時の「三方ヶ原の戦い」は、生涯最大の負け戦として知られます。将来に向けての大きな教訓になったと思われます。この戦いの後の家康公を描いたとされる「しきみ像」(徳川家康三方ヶ原戦役画像)は有名です。憔悴した表情は、他の肖像画とは全く異なるユニークなものです。家康公が、自身の慢心を戒めるために描かせ、自戒のために座右に置いたという口伝も残っています。ただし、近年ではこの肖像画は「三方ヶ原の戦い」時のものではなく、伝承にも史料的根拠はないという指摘もなされています。

しきみ像石像／岡崎城公園
(愛知県岡崎市)

解答… (4)

問題33

天正3年(1575)の長篠城の攻防戦において、岡崎城に救援要請に走った帰路に武田軍に捕らえられ、長篠城に向かって「徳川の援軍は来ない」と伝えるよう命じられたものの、「救援は間近ぞ！ 城を持ちこたえよ」と叫んだため、処刑された武士はだれでしょうか？

- (1) 大岡弥四郎
(2) 鳥居強右衛門
(3) 服部半蔵

- (1) とりいすねえもん
(2) 鳥居強右衛門
(3) 長谷川秀一

解説

鳥居強右衛門は、長篠城主であった奥平氏の家臣でした。長篠城の籠城戦における強右衛門の活躍は有名となり、感動した落合佐平次という武将は、磔にされた強右衛門の様子を描き背旗としたと伝えられます。また、岡崎出身の世界的な地理学者の志賀重昂は、強右衛門のエピソードが、テキサス独立戦争におけるアラモ砦の戦いの様子に極めて良く似ていることから、テキサス州と岡崎城公園にアラモ砦の碑を建立し両者を顕彰しています。このように、少数の籠城戦において犠牲的な貢献を行ったという逸話は長く人々の記憶に残りました。



磔にされた鳥居強右衛門を描いた展示物／新城市長篠城址史跡保存館(愛知県新城市)

解答… (2)

問題34

長篠城を守り抜き、戦後、家康公の長女を正室とした戦国武将はだれでしょうか？

- (1) 奥平信昌
(2) 菅沼定盈
(3) 戸田重貞
(4) 牧野成定

解説

奥平氏は、三河国作手の国衆でした。元は今川氏に仕えていましたが、「桶狭間の戦い」で三河における今川氏の影響力が弱ると、徳川氏に仕えました。その後、武田氏の奥三河侵攻に伴い武田氏に仕えるようになります。天正3年(1575)の「長篠・設楽原の戦い」の前に、家康公は奥平信昌に長女 亀姫を入嫁させることを約束し、奥平氏を武田方から帰順させました。その後、信昌は家康公の女婿として重用され、「関ヶ原の戦い」の後には美濃加納(岐阜市)10万石を与えられ京都所司代を務めています。江戸期には、奥平家は豊前国の中津藩(大分県中津市)藩主として明治を迎えるました。幕末には同藩から福沢諭吉が出ていました。



長篠城本丸跡(愛知県新城市)

解答… (1)

問題35

天正3年(1575)の「長篠・設楽原の戦い」において、織田・徳川連合軍はどのような戦法で武田軍に大勝利したのでしょうか？

- (1) 長篠城を挟んで流れる豊川と宇連川の流れを変えての水攻め
- (2) 武田騎馬隊の進撃を止める柵の設置と大量の鉄砲の集団使用
- (3) 織田・徳川の精銳騎馬隊による武田軍本陣への奇襲
- (4) 南蛮貿易で購入したイギリス製のカルバリン砲による砲撃

解説

「長篠・設楽原の戦い」において、織田・徳川連合軍は武田騎馬隊の進撃を止める馬防柵を設け、大量の鉄砲を用いて武田軍を破りました。種子島に鉄砲が伝来したのが天文12年(1543)。それ以後、鉄砲は急速に普及しました。「長篠・設楽原の戦い」は鉄砲伝来から32年後。3千挺とも言われる大量の鉄砲を用いて劇的な戦果を挙げた合戦として有名になりました。この合戦に勝利した織田信長は、翌年には安土城の築城を始めるなど「天下人」への道を歩みます。家康公は、武田軍により攻略されていた遠江の城の奪還に向かっていきます。



長篠合戦のぼりまつりでの鉄砲斉射
出典：新城市ホームページ

解答… (2)

問題36

天正7年(1579)、家康公の長男 信康の正室が、夫の信康と義母の築山殿の罪状を訴える手紙を父織田信長に出しました。これが発端となり、「信康・築山事件」が起きましたが、信康と不仲だったと伝えられる信康の正室の名前は何でしょうか？

- (1) 亀姫
- (2) 豪姫
- (3) 徳姫
- (4) 濃姫

解説

家康公の長男 信康は、織田信長の長女徳姫を正室に迎えていました。家康公が浜松城に移った後、岡崎には信康と徳姫、築山殿(信康の母)の3人がいました。徳姫は今川の血を引く築山殿と折り合いが悪く、信康とも不仲となって、父 信長に12箇条の手紙を書いたとされます。手紙には、信康と不仲であることや、築山殿が武田方と内通しているといったことが書かれていたため、信長は家康公に二人の処分を要求したとされます。これらは『三河物語』を基にした通説ですが、様々な解釈があります。いずれにせよ、家康公にとっては痛恨の出来事だったことは間違いないありません。



松平信康廟所／清瀧寺(静岡県浜松市)

解答… (3)

問題37

天正10年(1582) 6月、京都で「本能寺の変」が起きました。織田信長に同行し、明智光秀軍と戦い、本能寺で討ち死にしたと伝えられる信長の小姓は次のうちだれでしょうか？

- (1) 天草四郎
(2) 服部小平太
(3) 森 蘭丸
(4) 弥助

解説

森蘭丸は、織田家の家臣 森可成の三男として生まれ、信長の小姓として召し抱えられました。「本能寺の変」の際は18歳でした。火に包まれた本能寺での信長と森蘭丸の最後の場面は多くの軍記物などで描かれました。なお、蘭丸の弟である坊丸、力丸も小姓として仕えており、同じく「本能寺の変」で討ち死にしています。また蘭丸の兄である森長可は、森家の家督を継ぎ、織田家の武将として数々の合戦で活躍しました。信長の死後は、秀吉方に付き「小牧・長久手の戦い」に従軍。長久手にて徳川軍に鉄砲で狙撃され戦死しています。



森3兄弟(坊丸、蘭丸、力丸)の墓／可成寺
(岐阜県可児市)

解答… (3)

問題38

堺(大阪府)において「本能寺の変」を知った家康公は、三河に戻るため「伊賀越え」を行います。このとき、家康公に同行していた旧武田家の重臣は、家康公一行と別れた後、土豪に襲われ命を落としました。武田信玄の娘婿であるこの武将はだれでしょうか？

- (1) 秋山虎繁
(2) 穴山梅雪
(3) 馬場信春
(4) 山県昌景

解説

穴山梅雪は、武田家の家臣で御親類衆の筆頭格でした。母は武田信玄の姉、正室は信玄の娘であり、後に武田二十四将の一人に数えられています。武田信玄、勝頼に仕え、「川中島の戦い」や「長篠・設楽原の戦い」などに従軍しましたが、天正12年(1582)の織田・徳川軍の武田領内侵攻では、家康公に内応しました。武田氏の滅亡後、家康公とともに安土城の織田信長を伺候しましたが、「本能寺の変」後に横死しています。梅雪の養女於都摩の方と家康公の間に生まれた武田(松平)信吉は、慶長7年(1602)に常陸国水戸25万石に封ぜられています。



穴山梅雪(信君)肖像／
靈泉寺 蔵(静岡市清水区)

出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (2)

問題39

「本能寺の変」で織田信長が亡くなった後、旧武田領の上野国、信濃国、甲斐国において信長が行った知行割が崩壊しました。同地の領有をめぐって家康公や北条氏、上杉氏らの間で起きた動乱を何と呼ぶでしょうか？

- (1) 応仁の乱
(2) 観応の擾乱
(3) 壬午の乱
(4) 天正壬午の乱

解説

「本能寺の変」で織田信長が討たれたことを端緒として、旧武田領において「天正壬午の乱」が起きました。天正10年(1582)は、3月に武田氏の滅亡、6月に「本能寺の変」、翌月には「天正壬午の乱」が始まるなど、多くの出来事が矢継ぎ早に起きた年でした。乱後、家康公は甲斐一国と南信濃を領国とし実力を高めました。一方、真田家も3年後の「第一次上田合戦」に勝利して信濃上田の領国を守りました。その後、天正18年(1590)には、豊臣秀吉の「小田原攻め」が行われ、北条氏は滅びます。さらに家康公が関東に移封されたことから、甲斐・信濃には豊臣系の大名が配置されたこととなりました。



天正壬午の乱における「黒駒の戦い」で北条の大軍を破った鳥居元忠 肖像／常楽寺 蔵
(栃木県壬生町)

出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (4)

問題40

天正12年(1584)、「小牧・長久手の戦い」で家康公とともに羽柴秀吉軍と戦った大名はだれでしょうか？

- (1) 上杉景勝
(2) 織田信雄
(3) 真田昌幸
(4) 最上義光

解説

清須会議の後に、秀吉が織田信孝、柴田勝家と対立するなかで、織田信雄は三法師(信長の嫡孫)が成人するまでの間、名代として織田家の家督に据えられました。しかし、「賤ヶ岳の戦い」を契機に秀吉が信孝と柴田勝家を滅ぼすと、秀吉は信雄を安土城から退去させ、織田家の権威を凌駕していきました。天正12年(1584)、秀吉が和泉(大阪府)・紀伊(和歌山県)攻めのため諸将に大坂への参集を命じた際に、主筋である信雄にも参陣を求めるなど、秀吉は信雄との主従関係の逆転を図りました。窮した信雄は父信長の同盟者であった家康公を頼り、秀吉に対抗したのです。



「長久手の戦い」において、織田・徳川方の丹羽氏重と秀吉方の池田恒興の戦いの舞台となった岩崎城(愛知県日進市)

解答… (2)

問題41

「小牧・長久手の戦い」において、家康公と敵対し、秀吉と手を結んだ戦国大名はだれでしょうか？

- (1) 佐々成政 (2) 長宗我部元親
 (3) 北条氏政 (4) 毛利輝元

解説

「小牧・長久手の戦い」は、天正12年（1584）に秀吉軍と織田信雄・家康公の連合軍が激突した全国的規模の政治・軍事抗争でした。この戦いに際して、秀吉は自身の影響力を広げるため、中国地方の毛利輝元や越後の上杉景勝、常陸の佐竹義重など有力大名と広域的な連携を築き、織田・徳川連合に対抗しました。なかでも毛利輝元は西国最大の軍事力を背景に兵力・物資を供出し、秀吉の後背を強力に支援しました。これにより、家康公は広範な敵対勢力と向き合うこととなりました。戦国大名たちの複雑な同盟・対立構造が色濃く表れた戦いだったのです。



長久手古戦場碑（愛知県長久手市）

解答… (4)

問題42

「小牧・長久手の戦い」において、紀伊の雑賀衆や根来衆はどのような行動をとったでしょうか？

- (1) 家康公と結んで秀吉包囲網を形成した。
 (2) 秀吉の配下となり家康公に対抗した。
 (3) 家康公や秀吉とは距離を置き中立を守った。
 (4) 戦いに便乗して隣国を攻め、領地を拡大した。

解説

「小牧・長久手の戦い」で、織田信雄と家康公は紀伊の雑賀衆や根来衆、四国の長宗我部元親、北陸の佐々成政、関東の北条氏政、丹波（兵庫県、京都府、大阪府の一部）の国衆らと結んで秀吉包囲網を形成しました。雑賀衆は紀伊北西部（現和歌山市、海南市など）を中心とした地域の地侍などでした。根来衆は紀伊北部の根来寺を中心とした僧兵たちで組織していました。共に鉄砲を主力とする武装集団で、かつて本願寺勢力や反信長陣営と結びついていましたが、この戦局では家康公と結んで行動しました。



根来寺 大塔（和歌山县岩出市）

解答… (1)

問題43

天正13年(1585) 7月、羽柴秀吉は天皇を補佐して政治を行う最高位の官職を得ました。秀吉が任じられた官職は何でしょうか？

- (1) 関白
(2) 征夷大将軍
(3) 摂政
(4) 左大臣

解説

天正13年(1585)、秀吉は朝廷から「関白」に任じられました。関白は、天皇を補佐して政務を司る最高位の官職で、本来は公家が就くものですが、秀吉は武家の身分で初めてこれに就任しました。この任官により、秀吉は形式的に正統な政権を担う存在となり、その政治的地位は飛躍的に高まりました。これ以降、秀吉は公家・寺社・諸大名などに対し、強い影響力を持つようになり、天下統一に向けた基盤を固めています。関白就任は豊臣政権確立の大きな節目となりました。



豊臣秀吉 像／大阪城豊国神社(大阪市中央区)

解答… (1)

問題44

天正13年(1585) 8月に勃発した「第一次上田合戦」で、徳川軍を迎え撃ち、撤退させた戦国大名はだれでしょうか？

- (1) 小笠原貞慶
(2) 佐竹義重
(3) 真田昌幸
(4) 諏訪頼忠

解説

天正13年(1585)、家康公は傘下の真田昌幸に対し、信濃に替地を与えることを条件に上野沼田領の引き渡しを命じましたが、昌幸は拒否。上杉氏に寝返りました。これにより、鳥居元忠、大久保忠世、平岩親吉らが率いる徳川軍が上田城(長野県上田市)の昌幸を攻めたのが「第一次上田合戦」です。周辺の地形を熟知した昌幸は、地の利を生かした巧妙な戦術で兵数に勝る徳川軍を翻弄しました。真田方は奇襲や遊撃戦で徳川軍を分断し、指揮系統を混乱させるなど徹底抗戦。結果、徳川軍は大きな損害を受けて撤退を余儀なくされました。

上田城(長野県上田市)
出典：信州上田観光協会HP

解答… (3)

問題45

天正14年(1586)に家康公は秀吉の妹 朝日姫を正室に迎え入れ、大坂城に出仕しましたが、このとき、取次役を務めた大和郡山城主はだれでしょうか？

- (1) 黒田孝高(如水) (2) 豊臣(羽柴)秀長
 (3) 丹羽長秀 (4) 前田利家

解説

天正14年(1586)、家康公は秀吉の政権構想を受け入れ、秀吉の妹の朝日姫を正室に迎えることで豊臣政権との新たな関係を構築しました。この政略結婚の際、取次役を務めたのが、秀吉の実弟である豊臣(羽柴)秀長でした。秀長は畿内から紀伊にかけて100万石を超える領地を有し、各地の大名たちと豊臣政権を繋ぐ調整役として兄の秀吉を支えました。大和郡山城主であった彼は、家康公が秀吉に臣下の礼をとることの説得と大坂城出仕の過程で重要な役割を果たし、両者の融和に大きく貢献しました。



大和郡山城 追手門と追手向櫓(奈良県大和郡山市)

解答… (2)

問題46

天正18年(1590)の豊臣軍の「小田原攻め」で降伏した北条氏直の正室は、どの戦国大名の娘だったでしょうか？

- (1) 上杉謙信 (2) 織田信長
 (3) 武田勝頼 (4) 徳川家康

解説

天正18年(1590)の「小田原攻め」で北条氏直は降伏に追い込まれますが、第五代当主の北条氏直は家康公の二女 督姫を正室として迎えていました。この婚姻は、天正11年(1583)に成立しており、前年の「天正壬午の乱」で刃を交えた徳川家と北条家の和睦と同盟を象徴するものでした。督姫と婚姻していたことにより、氏直の降伏後の処遇は比較的穏当なものとなり、助命され高野山(和歌山県高野町)に配流されました。戦国時代において、大名家同士の婚姻は外交・同盟の重要な手段とされており、家康公もこれを積極的に活用していました。



小田原城(神奈川県小田原市)

解答… (4)

問題47

天正18年(1590)、家康公は秀吉の命により関東に転封となりましたが、関八州(関東八ヶ国)のなかで、安房国(千葉県南部)だけは家康公の領地になりました。この安房国を治める戦国大名はだれだったでしょうか？

- (1) 尼子勝久
(2) 蒲生氏郷
(3) 里見義康

- (4) 那須資晴

解説

安房国を治めていたのは、徳川家と同じく新田氏の一族であり、戦国期を通じて房総半島に勢力を築いた里見氏でした。里見義康は「小田原攻め」の際、いち早く豊臣方に臣従したことでの所領を安堵されましたが、秀吉の惣無事令を犯したことから上総・下総の所領は没収され、安房一国のみが残されました。天正18年(1590)、関東に移封された家康公は房総半島の要所である上総大多喜に本多忠勝を置き、里見氏の抑えとしています。里見義康は「関ヶ原の戦い」では東軍に加わり、加増され安房館山藩12万石の初代藩主となっています。



館山城(千葉県館山市)

解答… (3)

問題48

「小田原攻め」の前年、「摺上原の戦い」(福島県)に敗れて会津を追われ、戦国大名として滅亡したのは何氏でしょうか？

- (1) 蘆名氏
(2) 相馬氏
(3) 伊達氏

- (4) 南部氏

解説

天正17年(1589)、南奥州の覇権をめぐつて「摺上原の戦い」が勃発しました。この戦いで伊達政宗に敗れたのが、奥羽南部に勢力を張っていた名門 蘆名氏です。十六代 盛氏の時代に最盛期を迎ましたが、内紛や外圧によって衰退し、政宗に敗れた二十代当主 義広は会津の黒川城(現在の会津若松城)を退去して常陸に逃れ、大名としての蘆名氏は滅亡しました。これにより、伊達政宗は奥羽の広大な領土を手中に収めましたが、翌年の秀吉による「小田原攻め」に続く「奥羽仕置」で会津領は没収され、蒲生氏郷が入封しています。



会津若松城(福島県会津若松市)

解答… (1)

問題49

天正20年／文禄元年(1592)に朝鮮国に侵攻した「文禄の役」において、秀吉から朝鮮出兵軍の総大将に指名された、後の五大老のひとりはだれでしょうか？

- (1) 宇喜多秀家 (2) 伊達政宗 (3) 徳川家康 (4) 前田利家

解説

天正20年(1592 ※12月に文禄に改元)4月に始まった「文禄の役」では、備前の戦国大名、宇喜多直家の嫡男 秀家が21歳の若さで総大将に任じられました。秀家は、父の病死により11歳で家督を継ぐと秀吉の毛利攻め(備中侵攻)に従って信頼を得、秀吉の養女 豪姫(前田利家の娘)を正室に迎えています。秀吉の義理の婿となった秀家は豊臣一門としての扱いを受け、政権の中核に位置づけられました。彼は、朝鮮半島に渡海して戦線に赴いた諸将の上に立つ象徴的存在とされ、豊臣政権の威信を示す役割を果たしました。



宇喜多秀家 像／岡山城 藏
出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (1)

問題50

「文禄の役」において、一番隊、二番隊として朝鮮国首都 漢城府への一番乗りの手柄を競い合ったのは、どの武将の組み合わせでしょうか？

- (1) 浅野幸長と細川忠興
(2) 黒田長政と島津義弘
(3) 小西行長と加藤清正
(4) 福島正則と小早川隆景

解説

「文禄の役」において、先鋒として朝鮮半島に渡った加藤清正と小西行長は、一番隊・二番隊として熾烈な進軍競争を繰り広げました。両者は豊臣政権下の有力武将であり、領国が同じ肥後国(熊本県／北半国が加藤家、南半国が小西家の領地)ということもあります。互いに強い対抗意識を抱いていました。朝鮮半島に上陸した一番隊・二番隊はたちまち釜山を攻略し、加藤隊、小西隊とも破竹の勢いで進軍、朝鮮国(現ソウル)への一番乗りの手柄を競い、ほぼ同着で漢城府に入城しました。



朝鮮出兵の前線基地となった名護屋城址碑(佐賀県唐津市)

解答… (3)

問題51

慶長4年(1599)、「関ヶ原の戦い」の前年に、家康公の六男 忠輝は、ある武将の長女 五郎八姫と婚約しました。五郎八姫は次のどの戦国武将の娘でしょうか？

- (1) 浅野長政 (2) 伊達政宗
(3) 藤堂高虎 (4) 最上義光

解説

「五郎八姫」、伊達政宗の長女ですが、変わった名前ですね。伊達家の史料には「御男子の故を以て名付け玉へるは、北御方(正宗の正室)の御腹に嗣君誕生し玉はん事をあらかじめ祝し玉ふと云々」(伊達治家記録)とあり、男子が生まれる予定の名をそのまま使ったことがわかります。文禄3年(1594)、京都の聚楽第屋敷で生まれた五郎八姫は、聚楽第から伏見、大坂と各地を転々としましたが、慶長4年(1599)に有力大名との関係を深めようとする家康公の政略の一つとして、六男 忠輝(越後高田藩初代藩主)と婚約しました。慶長11年(1606)にようやく忠輝との結婚が成立、二人の仲は睦まじかったようですが、元和2年(1616)、忠輝が改易されると離縁され仙台に戻っています。



伊達政宗 像／
仙台城跡(宮城県仙台市)

解答… (2)

問題52

豊臣政権での五大老・五奉行制について、正しい記述はどれでしょうか？

- (1) 豊臣政権から家康公を孤立させるための制度であった。
(2) 奉行には吏僚派(文知派)を登用し、武断派を政治介入させないための制度であった。
(3) 合議のもとに政策を行う制度としたが、実際には徳川・前田の二頭体制になっていた。
(4) 合議のもとに政策を行う制度としたが、実際には秀吉側近だった石田三成の独裁体制になっていた。

解説

秀吉が制定した五大老・五奉行制は、有力者が力を合わせて政権を運営し、秀頼に継承できるようにすることを目的にしていたと考えられますが、浅野家の史料には「すべての政務の決裁は家康公と前田利家に受けること」という内容が記されています。石田三成など政務を担当した五奉行も、やはり決裁はこの二人から受けなければならず、「二頭体制」であったことが窺えます。



前田利家 像／
金沢城公園(石川県金沢市)

解答… (3)

問題53

慶長4年(1599)、武断派の豊臣大名7人が、対立していた吏僚派の奉行を襲撃する事件が起きました。襲撃された奉行とはだれでしょうか？

- (1) 石田三成 (2) 長束正家
(3) 前田玄以 (4) 増田長盛

解説

二頭体制の一人、前田利家が死去すると、石田三成が加藤清正・福島正則・黒田長政・細川忠興・浅野幸長らの七将に襲撃される事件が起ります(七将襲撃事件)。三成は同行した佐竹義宣・宇喜多秀家と共に、伏見城治部少丸曲輪にある自身の屋敷に入り立て籠もりました。この際に家康公の伏見屋敷に逃げ込んだという説は、現在では否定されています。ただ、このときに家康公が仲裁をしたことは事実で、大老の毛利輝元や上杉景勝、および北政所も仲裁に加わっていました。これにより三成は佐和山城に蟄居、家康公は伏見城に入ることとなり、政務の全般を担うこととなったのです。



伏見城(京都市伏見区)

解答… (1)

問題54

次の豊臣大名のなかで、前問の「七将襲撃事件」に加わっていないのはだれでしょうか？

- (1) 加藤清正 (2) 黒田長政
(3) 福島正則 (4) 堀尾吉晴

解説

堀尾吉晴は浜松城主であり、もともと豊臣秀次に付けられた宿老の一人でした。この宿老たちには、岡崎・西尾城主の田中吉政、掛川城主の山内一豊、駿府城代の中村一氏らがいました。彼らも主の秀次を失脚させ自刃に追い込んだ人物を石田三成と捉え、「七将襲撃事件」の七人とは異なる理由で三成を恨んでいたことも事実でしょう。「関ヶ原の戦い」では、皆、家康公に従い、吉晴に代わって息子の忠氏が参戦した堀尾家は、戦後、出雲国富田24万石に加増移封されました。11年後の慶長16年(1611年)には松江城を建造し、本拠を移しています。



堀尾吉晴 像／松江城(島根県松江市)

解答… (4)

問題55

家康公が大坂城に入るきっかけとなったのが、慶長4年(1599)、家康公の暗殺計画が発覚したことでした。この計画の首謀者とされ、母(まつ／芳春院)を江戸に人質に出すことで事なきを得た戦国武将は誰だったでしょうか？

- (1) 石田三成 (2) 前田玄以
(3) 前田利長 (4) 毛利輝元

解説

慶長4年(1599)9月、家康公暗殺計画が露呈しました。これは増田長盛などが前田利長・浅野長政らの計画を家康公に密告したことによります。家康公は謀反の嫌疑から、加賀征伐を決断しますが、前田家は交戦派と回避派の二つに分かれ紛糾します。交戦派であった利長は細川氏などを通じて豊臣家に対徳川の救援を求めました。しかし豊臣家が動かなかったことと、実母の芳春院の説得もあり、重臣の横山長知を幾度も弁明に派遣し、芳春院を人質として江戸に差し出すこと、養嗣子の利常と家康公の孫娘 珠姫(徳川秀忠二女)の婚約を条件に交戦を回避することができました。この際に浅野長政・大野治長などが連座し、一時期、追放されています。



前田利家と妻の芳春院が祭神の尾山神社神門
(石川県金沢市)

解答… (3)

問題56

慶長5年(1600)、家康公が会津の上杉景勝に対して問罪使を送り、詰問した内容について、あてはまるのはどれでしょうか？

- (1) 越後の堀秀治の領国に攻め入ったこと
(2) 輝居中の石田三成と密かに通じていたこと
(3) 陸奥の伊達政宗と軍事同盟を結んだこと
(4) 神指城の新たな築城など軍備を増強していること

解説

越後領主の堀秀治により上杉景勝謀叛の兆候があるとの訴えが出され、家康公は、伊奈昭綱を会津に派遣して景勝の上洛を促しました。しかし応じない景勝に対し、家康公は学僧の西笑承兌に早期の上洛を勧める手紙を書かせ、再度、伊奈昭綱に託しました。その内容は「景勝卿の上洛が遅れていることについて内府様(家康公)は不審に思っている。上方では良くない噂が流れている…神指原に新城を作ったり、越後河口に橋を造ったりするのは特によくないことだ。内府様の御不審ももっともだ」というものでした。



西笑承兌 肖像／大阪城天守閣 藏

解答… (4)

問題57

前問の家康公からの詰問に対し挑発的な返書を送り、家康公を激怒させたと伝えられる上杉家の家老はだれでしょうか？

- (1) 奥村助右衛門永福 (2) 片倉小十郎景綱
 (3) 都筑秀綱 (4) 直江兼続

解説

西笑承兌の詰問状に対する上杉家家老直江兼続の返書を「直江状」と呼び、家康公を激怒させた内容であるとされています。ただ、その写しは幾つか存在するのですが原文が存在せず、現在はその真偽について研究者の間でも意見が分かれています。一つは後世の偽作であるというもの、もしくは原文に手を加えたものではないかというものの、そして、実際にこのような内容であったとするもの等々です。文は「東国についてそちらで噂が流れていて内府様が不審がっておられるのは残念なこと」と始まっています。



「直江状」写しの一部 提供：荻野武彦氏（群馬県）

解答… (4)

問題58

蟄居中の石田三成を除く4人の奉行のうち、ただひとり家康公に従って「会津征伐」に参加、江戸留守居役を務めた奉行はだれでしょうか？

- (1) 浅野長政 (2) 長束正家
 (3) 前田玄以 (4) 増田長盛

解説

浅野長政は秀吉子飼いの武将の一人でした。「賤ヶ岳の戦い」で武功を挙げ「賤ヶ岳七本槍」の一人に数えられた武将です。また武功だけでなく行政能力にも長じており、秀吉は五奉行の筆頭として石田三成よりも長政を重んじたとも考えられています。この辺りから三成との確執が生まれたとされますが、家康公との関係も微妙なものだったようで、秀吉の死後、豊臣秀頼の立場を守るために家康暗殺計画を企てたとする増田長盛よりの密告があり、大野治長らと遠方に蟄居を命じられました。石田三成との仲は良くなかったのですが、豊臣家に対する忠義は厚く、家康公は加藤清正と同様、関ヶ原の本戦には参加させませんでした。



浅野長政 肖像／東京大学史料編纂所 藏

解答… (1)

問題59

家康公が「会津征伐」に向かっている間に、上方(京・大坂を中心とする畿内地方)ではどのようなことが起きたでしょうか？

- (1) 大坂の3人の奉行より、家康公が秀吉の遺命に背いたとして、家康公を弾劾する「内府ちがひの条々」が出された。
- (2) 秀吉の遺児の豊臣秀頼が、家康公を倒すため、諸国の大名に大坂城に集結するよう書状を送った。
- (3) 反家康派の諸将が、家康公の家臣の鳥居元忠が守る伏見城を説得して開城させ、いわゆる「西軍」を結成した。
- (4) 石田三成に命じられた奉行衆が「会津征伐」に従った大名の妻子を捕らえ、人質として佐和山城に幽閉した。

解説

慶長5年(1600)7月12日、上方に残っていた豊臣三奉行(前田玄以・増田長盛・長束正家)は広島にいた毛利輝元宛に大坂入りを要請します。さらに17日、三奉行は家康公の「太閤様御置目」違反を糾弾する「内府ちがひの条々」を諸大名に発しました。そして18日には石田三成も加わり、鳥居元忠らが守る伏見城への攻撃が始まったのです。毛利輝元を総大将とする「西軍」が結成されたのはこのときです。



増田長盛 肖像／
国立国会図書館 藏

解答… (1)

問題60

石田三成らにより大坂城への入城を要請され、「関ヶ原の戦い」において西軍の総大将とされた戦国大名はだれでしょうか？

- (1) 宇喜多秀家
- (2) 小早川秀秋
- (3) 島津義弘
- (4) 毛利輝元

解説

西軍の総大将になった毛利輝元でしたが、自身は大坂城に留まり秀頼の後見を行っていました。関ヶ原には養子である秀元を送り南宮山城に布陣させます。毛利一族の中では吉川広家が秀元と共に参戦しましたが、戦いに参加しない代わりに、東軍が勝利した際には毛利家の本領を安堵するという密約を交わしていました。関ヶ原の本戦では毛利一族は密約どおり全く動くことはなく、毛利家は本領を安堵されたのですが、本戦以外の中国・四国戦線で西軍として毛利軍を展開しており、これを咎められて減封、周防・長門の2ヶ国を領するのみとなってしまったのです。



毛利輝元 像／萩城跡指月公園(山口県萩市)

解答… (4)

問題61

上方での石田三成らの挙兵を聞き、会津に向かって進軍していた家康公らは、下野国小山で軍議を開いたといわれます（「小山評定」）。その軍議における発言によって、戦後、土佐一国20万石を与えられた大名はだれでしょうか？

- (1) 長曾我部盛親
 (2) 藤堂高虎
 (3) 蜂須賀家政
 (4) 山内一豊

解説

豊臣秀次の宿老であった山内一豊は、秀次が伊勢・尾張の地を与えられると、自身も掛川城を与えられ、掛川城主として城の修築や城下町の整備、大井川の築堤などを精力的に行いました。ところが主である秀次が秀吉から咎められると（秀次切腹事件）、一豊ら宿老衆にも危機が及びました。そのとき、家康公の仲裁により難を逃れたとも伝えられます。関ヶ原本戦の前の「小山評定」では、一豊が自身の掛川城を家康公に差し出すと決意を述べたことで、他の豊臣大名たちの決心を促したとされています。戦後の仕置きでは土佐20万石を与えられ、大名の仲間入りを果たしました。



山内一豊 像／高知公園（高知県高知市）

解答… (4)

問題62

「関ヶ原の戦い」において、合戦の最中に西軍を離反して大谷隊に襲い掛かり、西軍が総崩れを起こす端緒を開いた武将はだれでしょうか？

- (1) 宇喜多秀家
 (2) 吉川広家
 (3) 小早川秀秋
 (4) 毛利秀元

解説

一般的には小早川秀秋の裏切りにより、大谷吉継隊が壊滅、西軍の総崩れに繋がったとされていますが、近年では、秀秋は家康公とすでに内応しており、予定どおり大谷隊を襲ったのではないかという説も強くなっています。特に迷っていた秀秋の陣に対し、家康公が鉄砲を撃ちかけさせたとする「問い合わせ鉄砲」についても、実際はなかったとの説が出されています。調略は、当初から小早川家の家老 稲葉正成・平岡頼勝と東軍の黒田長政が中心となってが行われており、長政と浅野幸長の連名による「北政所（高台院）様のために（石田三成らと戦う）」と書かれた連書状が現存していることからも、事前の内応が成立していたと考えられているのです。

太平記拾遺十九：
 金吾中納言秀秋（錦絵）／
 東京都立図書館蔵

解答… (3)

問題63

豊臣秀吉の従兄弟で「賤ヶ岳七本槍」の筆頭に数えられ、「関ヶ原の戦い」での戦功により安芸広島50万石の大名となった豊臣恩顧の大名はだれでしょうか？

- (1) 片桐且元 (2) 加藤清正
(3) 福島正則 (4) 山内一豊

解説

福島正則は豊臣秀吉子飼いの武将であり、「賤ヶ岳七本槍」の一人です。豊臣秀次切腹の命を伝えた正則は、その遺領から清須城と周辺20万石余りを拝領しました。朝鮮出兵後には石田三成との関係が悪化、襲撃事件にも加わっています。関ヶ原本戦では、東軍の先鋒として宇喜多秀家隊と激突、激戦となりますが何とか敵の進軍を食い止めたとされています。勝利後はいち早く大坂城に入城し、毛利輝元から城を接收しました。これらの功から安芸広島と備後鞆の50万石を拝領、中国地方最大の大名となります。しかし家康公の死後、台風の被害を受けた広島城の修理を無断で行ったとして改易され、改めて信濃高井野藩4万5千石に封じられました。



福島正則の居城 広島城(広島県広島市)

解答… (3)

問題64

「関ヶ原の戦い」での戦功により、紀伊国和歌山藩の初代藩主に任じられた豊臣恩顧の大名はだれでしょうか？

- (1) 浅野幸長 (2) 加藤嘉明
(3) 黒田長政 (4) 本多忠勝

解説

浅野幸長は浅野長政の嫡男です。幸長と書いて「よしなが」と読みますので注意してください。幸長は、関白秀次切腹事件の際に秀次を弁護したことで秀吉の怒りに触れ、能登に配流されてしまいました。前田利家や家康公の仲裁もあり一年で赦されますが、以後、家康公に接近するようになりましたと考えられます。秀吉の死後、父の長政は家康公暗殺計画で罰せられるなど、反石田三成派であったにもかかわらず家康公からは疎まれてしまいました。関ヶ原本戦にも父の長政は江戸城留守居役として参戦できず、代わりに幸長が参戦、池田輝政らと先陣を務めて功を挙げ、紀州和歌山に初代藩主として封ぜられました。



浅野幸長 肖像／東京大学史料編纂所 藏

解答… (1)

問題65

家康公が関東に転封になったあとの三河 岡崎城主で、「関ヶ原の戦い」では逃亡した西軍の石田三成を捕らえた功により、戦後、筑後柳川32万石の大名となった豊臣恩顧の大名はだれでしょうか？

- (1) 柳原康政 (2) 田中吉政 (3) 細川忠興 (4) 前田利常

解説

田中吉政は岡崎・西尾城主となった豊臣大名として有名です。家康公の関東移封後に岡崎城主となった吉政は、城の周囲に土居と堀を巡らし、「惣構え」の城下を形成しました。惣構えとは、城を中心とした城下に武家町や商人町などを造り、城としての機能のみならず、町の発展を促したグランドデザインです。このとき旧東海道を現在の城下に引き入れ、矢作川架橋も計画しました。やがて矢作川には橋が架けられ、東海道唯一の矢作橋が完成、東海道五十三次の名所ともなったのです。吉政は「関ヶ原の戦い」で功を挙げ、筑後柳川32万石の大名に抜擢されました。柳川の城下町造りにも手腕を発揮、水路を生かした日本有数の「水の町」を造ったのです。



田中吉政 像(福岡県柳川市)

解答… (2)

問題66

「関ヶ原の戦い」の後、会津の初代藩主には、西軍の上杉家に替えて、家康公の三女 振姫の夫である大名を宇都宮から加増転封しました。この大名とはだれでしょうか？

- (1) 宇都宮国綱 (2) 蒲生秀行 (3) 伊達秀宗 (4) 保科正之

解説

蒲生氏については、信長・秀吉に仕えた氏郷の功績が大きく、「小田原攻め」後に奥州仕置の要として会津に91万石で入封、会津発展の礎を築いたところから知っておく必要があります。氏郷は農業政策より商業政策を重視、旧領の近江国日野(氏郷の出生地)・伊勢国松阪の商人を会津に招聘しました。また、定期市の開設や、楽市・楽座の導入を行い、さらには手工業の奨励を行ったのです。嫡子の秀行は、父 氏郷が40歳の若さで亡くなると、秀吉により宇都宮18万石に転封されますが、家康公の三女 振姫との結婚を条件に会津に戻されたとも言われています。

蒲生氏郷 像
(滋賀県蒲生郡日野町)
日野観光協会HPより

解答… (2)

問題67

家康公の二女 とくひめ 督姫の再婚相手であり、「関ヶ原の戦い」の後、播磨はりま(兵庫県)一国を与えられた大名はだれでしょうか？

- (1) 有馬晴信 ありま はるのぶ
 (2) 一色義員 いっしき よしかず
 (3) 池田輝政 いけだ てるまさ
 (4) 吉川元春 よしかわ もとはる

解説

池田輝政は池田恒興の二男として生まれました。「小牧・長久手の戦い」で父 恒興と兄の元助を失い、21歳で家督を継いで大垣城主となりました。以後は秀吉に目をかけられ、豊臣姓まで賜っています。また、これも秀吉の仲介で家康公の二女 督姫と結婚しました。家康公の関東移封後は吉田城主(豊橋市)となり、15万2千石を賜っています。この時期に尾張の領主となった豊臣秀次付きの宿老になったのではと考えられます。秀次切腹事件の際は、輝政の妹は秀次の正室だったのですが、特に罪を被ることなく大切に扱われました。この辺りから石田三成との関係が悪化したのではと推測されます。「関ヶ原の戦い」の功により、播磨国(兵庫県)姫路藩初代藩主として52万国を領したのです。



池田輝政 肖像／
鳥取県立美術館 藏

解答… (3)

問題68

「関ヶ原の戦い」の後、徳川家を除き、100万石を超える所領を持つ大名は1家だけとなりました。それはどの大名家でしょうか？

- (1) 島津家 しまづ け
 (2) 伊達家 いだ け
 (3) 豊臣家 よしまつ け
 (4) 前田家 まへだ け

解説

前田利長は家康公暗殺計画が発覚し、母けいせいを江戸に送って許しを得たという経緯がありました。以降、家康公には従順に従い、「関ヶ原の戦い」では東軍について大聖寺城(石川県加賀市)を攻略、越前国まで平定しました。金沢への帰路の8月8日には小松城(石川県小松市)主 丹羽長重軍に背後を襲われ、からくも撃げきたたい退し、後に和睦し反抗を止めることに成功しました。ところが、西軍に妻子を人質にとられた弟の利政が軍務放棄したため利長は激怒、利政が西軍についたと自ら家康公に報告したとされています。結果、利政の治める能登と西加賀の領地が利長に与えられることになり、合わせて100万石を越える知行地を得たのです。



前田利長 像／瑞龍寺参道
(富山県高岡市)

解答… (4)

問題69

“北の関ヶ原”とも呼ばれる「慶長出羽合戦」において、東軍の出羽山形城に向け攻め込んだ西軍の上杉景勝軍の総大将はだれでしょうか？

- (1) 九戸政実
なんぶはるまさ
(2) 直江兼続
のへまさざね
(3) 南部晴政
なんぶはるまさ
(4) 前田慶次郎

解説

最上義光ら奥羽の諸将は東軍(徳川方)に味方し、出羽山形城に集結していました。しかし西軍の挙兵を知った東軍は下野小山から反転西上したため、奥羽諸将は自領に引き上げてしまいました。会津の上杉景勝は、家老の直江兼続を総大将に孤立した最上領への侵攻を開始します。圧倒的な兵力を持つ上杉軍に対し、最上軍は各城で必死の防戦を強いられました。なかでも「長谷堂城の戦い」が有名で、城を守る少数の兵士たちは果敢に抵抗し、逆に上杉軍に多大な損害を与えました。激戦のなか、関ヶ原での東軍勝利の報が伝わると直江兼続は撤退を開始、戦局は逆転することになります。これら一連の戦いを「慶長出羽合戦」と呼んでいます。



直江兼続 像／
与板歴史民俗資料館
(新潟県長岡市)

解答… (2)

問題70

「慶長出羽合戦」において、「関ヶ原の戦い」の東軍勝利の知らせが入るまで上杉軍の猛攻を凌ぎ、上杉軍の江戸侵攻を足止めした出羽の戦国大名はだれでしょうか？

- (1) 大崎義隆
おおさきよしたか
(2) 伊達政宗
いだまさむね
(3) 津軽為信
つがるためのぶ
(4) 最上義光

解説

最上義光は天文15年(1546)に山形城で生まれました。家康公より4歳年下です。永禄3年(1560)に元服、足利十三代将軍 義輝から一字をもらって「義光」と名乗ります。元亀元年(1570)、25歳で最上家の当主になりました。実は最上氏は、義光の祖父 義定の代に伊達氏と戦って敗北し、父である義守の代まで伊達家の配下になっていました。対して義光は、伊達からの独立を画策したため父 義守との間で対立が生じ、結果、義光が家督を相続して義守は出家することで収まりました。しかし義光26歳のとき、義守は伊達輝宗と内通して義光を攻めます。これを凌いだ義光は伊達家から独立、後には家康公とも信頼関係を築き、出羽国の大だなとなっていくのです。



長谷堂合戦図屏風(複数、部分)
の最上義光 像／最上義光歴史館
(山形県山形市)

解答… (4)

問題71

豊後国(大分県)でも、“九州の関ヶ原”と呼ばれる戦いがありました。東軍の黒田孝高(如水)が西軍についていた大友義統を攻め、勝利した戦いです。この戦いを何というでしょうか？

- (1) 石垣原の戦い (2) 四万十川の戦い
 (3) 田原坂の戦い (4) 戸次川の戦い

解説

石垣原は現在の別府市に当たります。秀吉の軍師であった黒田孝高は、息子の長政を「関ヶ原の戦い」に参戦させ、自らは領地の豊前国中津城で留守居をしていました。ただこの間に数多くの兵を集め、東軍の一味として戦いに参加しようと自論んでいたのです。その手始めが豊後国の杵築城に進出した大友義統との戦いでした。両軍は石垣原で激突、主力の武士たちを多く失うなど激しい戦いを繰り広げ、最後は義統が降伏。大名家としての大友氏は滅亡しました。孝高はこれ以降も西軍側に従っていた諸将を攻略し続けますが、家康公からの停戦命令でやむなく兵を引いたとされています。



黒田孝高(如水)所用の
 黒糸威胴丸具足
 (福岡市博物館 藏)

解答… (1)

問題72

同じく九州において東軍として活躍し、戦後、肥後熊本52万石の大名となった豊臣恩顧の大名はだれでしょうか？

- (1) 小西行長 (2) 加藤清正
 (3) 佐々成政 (4) 宗 義智

解説

秀吉の子飼いの武将でもあった加藤清正ですが、石田三成とは朝鮮出兵における功を巡る秀吉への讒言もあり全くの不和になります。そのため家康公に接近し、秀吉死後は家康公の養女を継室として迎えるなど関係を深めていきました。ところが、領国の肥後にいるとき、島津氏の重臣である伊集院氏が主家に反旗を翻した「庄内の乱」において、清正が伊集院氏を支援していたことが発覚、五大老筆頭として事態の収拾を図っていた家康公はこの重大な背信行為に怒り、清正の上洛を禁じて、「関ヶ原の戦い」時にも熊本に謹慎させていたのです。しかし西軍に属した小西行長の宇土城、立花宗茂の柳川城を開城させた功などが認められ、肥後熊本52万石を与えられました。



出生地の妙行寺に建つ
 加藤清正 像(名古屋市中村区)

解答… (2)

問題73

「関ヶ原の戦い」後の論功行賞により、各地にあつた豊臣家の太閤蔵入地(直轄領)も東軍の諸将に分与されました。最終的に残った豊臣家の領国はどこでしょうか？

- (1) 畿内5ヶ国(大和、山城、やまと やましろ 摂津、せつ さつ かわち 和泉、いづみ)
 (2) 畿内の内、3ヶ国(摂津、河内、和泉)
 (3) 畿内の内、大坂城のある摂津1ヶ国
 (4) 畿内の内、京の都のある山城1ヶ国

解説

「関ヶ原の戦い」後、家康公は豊臣家の蔵入地220万石のうちほぼ155万石を削減し、東軍の諸将に分与しました。これにより、豊臣家の所領は摂津・河内・和泉の約65万石程度まで削減されました。ただ、その3ヶ国のほかに伊勢国や備中国に豊臣直臣団の知行地が存在し、豊臣氏には彼らからの上納もありました。家康公はそういう領主のいない地域に一国規模の支配権を有する「国奉行」を設置、豊臣氏への上納金などの管理も行つたのです。片桐且元や大久保長安などがその任に当たりました。こうして豊臣氏の一大名化を図つていったのです。



国奉行の一人
小堀遠州(政一)肖像
賴久寺 蔵(岡山県高梁市)

解答… (2)

問題74

慶長8年(1603)、家康公は征夷大將軍に任命されました。家康公が幕府を開いた江戸は、次のどの国にあるのでしょうか？

- (1) 上野 (2) 相模 (3) 武藏 (4) 陸奥

解説

家康公が江戸に入ったのは、秀吉による関東移封の時ですね。家康公が秀吉から与えられた関東領国は、武藏、相模、伊豆、上総、下総、上野の六ヶ国と下野、常陸の一部でした。武藏国とは現在の東京都、埼玉県、神奈川県の一部。相模国は、神奈川県の大部分、伊豆国は静岡県の一部と東京都の一部(伊豆諸島)、上総国は千葉県の中央部、下総国は千葉県北部と茨城県南西部、上野国は概ね群馬県にあたります。また下野国は概ね栃木県、常陸国は茨城県の大部分になります。律令制国の呼び方ですから、現在の県別に分けることはできません。江戸は武藏国に含まれていました。



関八州 国名図

解答… (3)

問題75

慶長16年(1611)、天皇の譲位と新天皇の即位に合わせ、家康公が豊臣秀頼と二条城で会見した翌月、家康公は在京の西国大名ら諸大名に誓詞(三ヶ条誓詞)を提出させました。この誓詞で、第一に各大名に誓わせたのはどのようなことだったでしょうか？

- (1) 幕府が発する法令を守り、幕府の命令には背かないこと。
- (2) 戦時には將軍のもとに駆けつけ、將軍を守ること。
- (3) 秀吉の遺言に背くことなく、武力による争いをしないこと。
- (4) 幕府の許可なく、大名同士の縁組(婚姻)をしないこと。

解説

この三ヶ条誓詞の初めには次のような文が記されています。

「一、如右大将家以後、代々公方之法武可奉仰之、被考損益而自江戸於被出御目録者、弥堅可守其旨事」。内容は、「鎌倉幕府以後の法令と同じく、江戸幕府の法令を守ること」というものです。これにより、豊臣秀頼との二頭体制を否定し、秀頼の孤立化が進んだのです。



大名三箇条誓詞(東京国立博物館 藏)

解答… (1)

問題76

「大坂の陣」の端緒となった「方広寺鐘銘事件」において、豊臣と徳川との調整役を担った豊臣家の重臣はだれでしょうか？

- (1) 織田有楽斎
- (2) 大野治房
- (3) 片桐且元
- (4) 木村重成

解説

江戸幕府が開かれ、豊臣家を支えてきた恩顧の有力な大名たち—浅野長政や加藤清正・池田輝政・浅野幸長・前田利長らが亡くなつたことで、豊臣家の孤立は深まつてしまつた。このような状況の中で、秀吉恩顧の大名として、唯一、家康公との関係を保っていたのが片桐且元です。且元は秀吉からの信頼も厚い武将で秀頼の守役に任じられていました。豊臣家の存続を願う数少ない武将の一人だったと考えられます。ただ周りに自分と同じように意見を具申できる仲間も少なく、豊臣家の中で次第に孤立して行きました。方広寺鐘銘事件ではその対応を巡り、大坂城から追放されたのです。



問題となった銘文が書かれた方広寺の梵鐘(京都市東山区)

解答… (3)

問題77

慶長19年(1614)の「大坂冬の陣」において、大坂城の南に出丸を築いて迎え撃ち、徳川軍に大きな損害を与えた武将はだれでしょうか？

- (1) 後藤基次 (2) 真田信繁(幸村)
(3) 長宗我部盛親 (4) 毛利勝永

解説

真田信繁(幸村)が築いた出丸は、真田丸と呼ばれています。大坂城は北と西、東は川に囲まれ天然の要害となっていましたが、南側は堀しかなく徳川軍(幕府軍)の攻めどころになっていました。信繁はそこに巨大な出丸(陣地)を築き、襲い掛かる徳川軍に甚大な被害を与えたのです。この出丸は「冬の陣」後に完全に取り壊されてしまったため、その規模は明確ではありません。しかし、近年精力的に調査が行われ、曲輪を含めた真田丸全体の大きさは東西600mほど、南北350mほどであり、堀で囲まれた主郭は東西長200～230m、南北長200mと、かなり巨大な出丸だったことがわかつてきました。



真田丸跡と真田信繁像／三光神社(大阪市天王寺区)

解答… (2)

問題78

「大坂夏の陣」の最後に、秀頼の正室の千姫を炎上する大坂城から脱出させ、淀殿、秀頼とともに自害した側近の武将はだれでしょうか？

- (1) 明石全登 (2) 大野治長
(3) 片桐且元 (4) 木村重成

解説

大野治長の母は大蔵卿局といい、浅井長政とお市の方の娘である淀殿の乳母となつたことから、治長と淀殿とは乳母子の間柄になります。幼い頃から淀殿の傍に仕えていたことになります。大蔵卿局および治長らは、小谷城以来、ずっと淀殿に付き従っていたと考えられますが、天正11年(1583)の越前北ノ庄城の落城後は淀殿の所在すらよく分からず、治長の前歴は不詳といって差し支えないでしょう。後に秀吉の馬周り役に取り立てられ、大蔵卿は再び淀殿の傍に仕えることになります。治長は「大坂の陣」に対しては徳川融和派でしたが、強硬派の声に負け遂には豊臣氏と共に滅んでいったのです。



「大坂夏の陣図屏風」に描かれた
大野治長／大阪城天守閣蔵
(大阪市中央区)

解答… (2)

問題79

「大坂の陣」で豊臣家の滅亡を見届けた家康公は、翌年4月に薨去し、遺言の地に葬られました。後に二代将軍により、この地に東照宮が建てられましたが、何という東照宮でしょうか？

- (1) 上野東照宮 (2) 久能山東照宮
(3) 世良田東照宮 (4) 瀧山東照宮

解説

元和2年(1616)、家康公は75年の生涯を終えました。遺骸は遺命によって久能山に葬られ、元和3年(1617年)12月には二代将軍秀忠によって東照社の社殿が造営されました。家康公の遺命は久能山への埋葬および日光山への神社造営であったので、日光山の東照社もほぼ同時期に造営が始まっています。日光東照宮は三代将軍家光の代における「寛永の大造替」で、家康公を祀る日本全国の東照宮の総本社的存在となりました。同時に家光は久能山の整備も命じており、社殿以外の透堀、薬師堂、神楽殿、鐘楼、五重塔、楼門が増築されたのです。



家康公廟所宝塔／久能山東照宮(静岡市駿河区)

解答… (2)

問題80

家康公死後の元和5年(1619)、安芸に転封となつた浅野家に代わり、家康公の十男が新たな和歌山藩主として和歌山城に入城、紀伊徳川家が誕生しました。初代藩主となった家康公の十男はだれでしょうか？

- (1) 徳川忠長 (2) 徳川義直
(3) 徳川頼宣 (4) 徳川頼房

解説

徳川将軍のほかに徳川姓を許されたのが「御三家」です。尾張徳川義直、紀伊徳川頼宣、水戸徳川頼房がその初代となります。それぞれ家康公の九男・十男・十一男が御三家となりました。御三家は将軍家に世継ぎがいなかった場合、三家の内から将軍を出すことと定められました。実際に将軍職に就いたのは紀伊徳川家の吉宗でした。八代将軍として幕政の改革を推し進めたことでも有名です。吉宗は以後の将軍家の血筋を紀伊家から輩出させようと考え、自分の子どもや孫たちに江戸城内に屋敷を持たせ、それぞれ田安徳川家、一橋徳川家、清水徳川家の「御三卿」を成立させました。最後の将軍慶喜は水戸家の出身ですが、一橋家に養子に入り、後に将軍となっています。

徳川頼宣 肖像／和歌山県立博物館 藏
(和歌山市)

解答… (3)

問題81

家康公の十男が転封で紀伊 和歌山城に入ったとき、附家老として田辺城を与えられた元 家康公側近の武将はだれでしょうか？

- (1) 安藤直次 (2) 成瀬正成
(3) 水野重央 (4) 渡辺守綱

解説

徳川御三家に付けられた家老たちは、もともとは家康公の直臣として功を成した武将が指名されました。彼らを將軍家の命で付けられた家老ということで「附家老」と呼んでいます。紀伊徳川頼宣には安藤直次、水野重央が付けられました。直次は頼宣が9歳の時からその附家老に任じられています。家康公のたっての依頼によるものであり、頼宣の家老になるということは家康公の直臣ではなくなる(陪臣になる)ということでもあったのですが、直次はこれに応じ献身的に仕えました。そして元和5年(1619)に頼宣が紀州藩主になると、直次も附家老としてそれに従い、家臣でありながら田辺城3万8千石を与えられたのです。また水野重央には3万5千石で新宮城が与えられました。



安藤直次 肖像／
東京大学史料編纂所 藏

解答… (1)

問題82

三河国で、戦国大名と呼べる家は何家あるでしょうか？

- (1) 一家 (2) 二家 (3) 三家 (4) 四家

解説

三河を出自とする戦国大名は、徳川家の一家となります。ドングリの背比べのような状況の中で、三河一国はおろか、半分を手中に収めるに至った国衆も存在しませんでした。一方で、三河を舞台として西から織田が、東からは今川が進軍してそれぞれの所領を三河に得ています。特に今川義元は三河守にも任じられています。また家康公との抗争の中で、武田氏も三河に侵攻しており、奥三河は武田方の勢力にもなっています。

そうしたなかで、最終的に三河一国を平定したのは家康公でした。

“戦国大名”という縛りを外せば、後に三河は多くの大名家を輩出しています。



三河を統一し、戦国大名として歩み出した25歳の家康公 騎馬像
(岡崎市／名鉄東岡崎駅前)

解答… (1)

問題83

鎌倉幕府の下、足利氏が三河を拠点とするきっかけとなった戦は何でしょうか？

- (1) 応仁・文明の乱 (2) 承久の乱
 (3) 治承・寿永の乱 (4) 中先代の乱

解説

承久3年(1221)の「承久の乱」の軍功により、足利義氏が三河守護に就任しました。以後、三河は足利氏の拠点として展開していきました。それを示すように、吉良・今川・仁木・細川など、特に西三河の地名に名字のルーツをもつ足利氏一門が成立しています。この史実を知った江戸時代の吉田藩の儒者大田錦城は、「三河武士は二度天下を獲った」と感嘆しています。一度は足利氏、もう一度はもちろん家康公のことです。

家康公の天下統一という偉業は家康公の才覚に依るところが大きいのは事実でしょう。しかし彼の出自や家臣、さらには三河の風土や歴史に求めてみることも、大事な見方だと思います。



今川氏発祥の地(愛知県西尾市今川町)

解答… (2)

問題84

室町幕府の直轄地と直属部隊の名称として、正しい組み合わせはどれでしょうか？

- (1) 預所・管領 (2) 蔵入地・旗本
 (3) 御料所・奉公衆 (4) 御館・御伽衆

解説

室町幕府の直轄地を御料所、直属部隊を奉公衆と称します。(1)預所は荘園を在地で統括する職、管領は室町幕府で幕政を統括する職、(2)蔵入地・旗本は特に江戸幕府の直轄地・直属部隊のこと、(4)御館は領主などのことで、屋形は格を示す尊称として功績のある家柄に赦されるものでした(屋形号)。

足利氏と関わりの深い三河には御料所が多く存在し、奉公衆も配置されました。御料所の管理は在地の勢力にも委ねられ、それにより在地と中央のつながりが形成されました。その繋がりを活かして台頭した氏族が松平氏です。

解答… (3)



御料所の管理も行った松平家の初代に数えられる親氏像(愛知県豊田市松平町)

問題85

三河国において、松平氏が勢力を大きく拡大することができた要因として誤っているのはどれでしょうか？

- (1) 三河が室町幕府にとって重要な地であり、権力の介入がなされた結果、圧倒的な勢力が存在しなかったから。
- (2) 松平氏は室町幕府の財政・所領を扱う政所のトップに仕え、中央との繋がりを有していたから。
- (3) 知恩院(京都)の住持や天皇の臨終導師を務める寺僧が一族から登場し、宗門や朝廷との繋がりを得たから。
- (4) 寛正の額田郡一揆で当時の守護を追放し、三河国内に広域な所領を獲得したから。

解説

「寛正の額田郡一揆」は額田郡の牢人が幕府に対して蜂起した一揆で、松平・戸田氏らの活躍により制圧されました。この一揆鎮圧の功により、松平氏は西三河に勢力を大きく伸長したとされます。当初は守護勢力による一揆鎮圧が図られますかうまくいかず、幕府政所執事の伊勢氏が、自身の在地家臣である松平氏らに命じて出兵させました。前問の解説で記したように、三河は中央の勢力と直接の繋がりを有していたためにできた対応といえるでしょう。松平親忠の五男 超誉存牛は知恩院の住持になる際、天皇から直接命じられており、こうした仏教を介した朝廷や京との関係構築も見逃すことはできません。

解答… (4)

問題86

家康公の祖父 清康や父 広忠は、三河のある家の当主から名前の一宇をもらったとされます。その家とはどこでしょうか？

- (1) 伊勢氏
- (2) 一色氏
- (3) 今川氏
- (4) 吉良氏

解説

清康・広忠は東条吉良家当主の持清・持広から名前の一宇を与えられた(偏諱)とされます。基本的に偏諱は上位の人物から受けるもので、通字(その家の代々の男子の名前に共通して用いられる文字)と相まって、武家の名前は多くの情報をもたらしてくれます。家康公の前の名である元康は、今川義元から偏諱を賜ったことは良く知られています。一方で“家”的字はどこからもたらされたのか？ 家康公は武勇に優れた祖父 清康にあやかり元信から元康に改名しました。これと同様に、源氏の棟梁、八幡太郎義家から家の字をいただいたと考えられます。義家の武辺にあやかるとともに、義家が家康公の祖先であることを示すためです。しかし、この説を裏付ける確証は未だない状況です。現代まで徳川宗家に受け継がれる通字が、実は今も謎というのも何だか口マンがありますね。



解答… (4)

問題87

『東照社縁起絵巻』に記される幼少期の家康公のエピソードとして正しいのはどれでしょうか？

- (1) 縁側で立ち小便をし、今川の武将たちを驚かせた。
- (2) 鷹狩に憧れ、家臣に百舌鳥を鷹のように駕けよと命じたができなかったので、その家臣を縁側から蹴落とした。
- (3) 家康公と同じく今川氏の人質になっていた北条氏規と親しく交流した。
- (4) 子供たちの印地打(石合戦)を見て、少数の方が勝つことを予見した。

解説

ここに挙げられたエピソードは、いずれも家康公が幼少のころの逸話として知られています。いずれもその豪胆さや、上に立つものとしての性質を生まれながらに持っていたことを顕彰していますが、その逸話がいつから語り継がれているか分かるものは多くありません。中には江戸時代に神格化されていくなかで、創出されたものもあると考えられます。そうした中で、制作年や目的が明確な『東照社縁起絵巻』に記されている印地打のエピソードは、早くから幕府に取り上げられる「公式エピソード」として注目されます。



『東照社縁起絵巻』が
収められた日光東照宮
(栃木県日光市)

解答… (4)

問題88

守護の土岐氏を追放し、下剋上で美濃の国主に成り上がり、娘を織田信長の正室とした戦国大名はだれでしょうか？

- (1) 明智光秀
- (2) 斎藤道三
- (3) 北条早雲
- (4) 毛利元就

解説

斎藤道三は戦国時代の「下剋上の典型」と評されます。近世の軍記物などでは、美濃の油売りから身を起こし、一代で美濃の国主に成り上がったとされていました。近年の研究によれば、父の松波庄五郎と父子二代にわたっての国盗りであったことが明らかになっています。道三は主君の長井家を乗っ取り、さらに守護代の斎藤家の名跡を継ぐと、天文11年(1542)守護の土岐頼芸を追放し、ついに美濃の国主となります。天文18年頃には織田家と和睦の証として娘を信長に嫁がせています。しかし、晩年には息子 義龍と不仲になり、弘治2年(1566)、父子対決となった「長良川のは戦い」で道三は敗死し、波乱万丈の生涯を閉じました。



斎藤道三の娘 濃姫 像／
清洲古城跡公園(愛知県清須市)

解答… (2)

問題89

越前 朝倉氏と尾張 織田氏は、両国の守護を務める、ある管領家の守護代から戦国大名となりました。両家が仕えていた管領とは何氏でしょうか？

- (1) 斯波氏 (2) 畠山氏
(3) 細川氏 (4) 山名氏

解説

室町時代、政務・軍務などについて将軍を補佐し、幕府を統括する役職が「管領」でした。将軍に次ぐ重要ポストである管領職は、細川・斯波・畠山による世襲制が敷かれています。これを「三管領制」と呼び、幕府権力がひとつの家に集中することを防ぐ役割も果たしていました。三管領家のひとつである斯波氏は足利一門の名家で、越前・尾張・遠江などの守護職を歴任しました。しかし、「応仁・文明の乱」以降、勢力を失い、加賀は朝倉氏、遠江は今川氏に奪われました。尾張では守護代である織田氏の庇護を受けていましたが、信長の時代に尾張から排除されました。



信長に追放された最後の尾張守護斯波義銀 肖像／妙心寺大龍院蔵
(京都市右京区)

出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (1)

問題90

浅井長政と信長の妹 お市の間に生まれた浅井三姉妹。長女の茶々が側室として嫁いだ武将はだれでしょうか？

- (1) 石田三成 (2) 大野治長
(3) 柴田勝家 (4) 豊臣秀吉

解説

浅井三姉妹とは、長女 茶々・次女 初・三女 江を指します。近江の戦国大名 浅井長政が織田信長と対立して自害した後、妻のお市の方は柴田勝家と再婚します。勝家が秀吉に敗れるとお市の方は勝家と共に自害、三姉妹は秀吉の庇護を受けるようになります。茶々は豊臣秀吉の側室となり、鶴松と秀頼を産みました。鶴松は夭折しますが、秀頼は豊臣家の跡継ぎとなります。茶々は淀殿と呼ばれ大坂城で豊臣家を支えますが、最期は「大坂の陣」で徳川勢に敗れ、秀頼とともに自刃しています。



浅井三姉妹の像／北の庄城址・柴田公園
(福井県福井市)

解答… (4)

問題91

前問の浅井三姉妹の三女のお江（お江与）が秀吉の仲介で嫁いだ3人目（最後）の夫はだれでしょうか？

- (1) 京極高次 (2) 佐治一成
(3) 徳川秀忠 (4) 豊臣秀勝

解説

浅井三姉妹の三女 江の最初の夫は、織田信雄の家臣で信長の妹 於犬の方を母に持つ佐治一成でした。二度目の夫は、豊臣秀吉の甥で養子の豊臣秀勝。秀勝は「文禄の役」に出征中に陣中で病死してしまいます。24歳の若さでした。こうした政略結婚を経て、江は、後の二代将軍 徳川秀忠の正室となりました。三代将軍 家光や千姫、和子ら二男五女をもうけています。江の長女 千姫は豊臣秀頼の正室となり、「大坂の陣」で救出されて本多忠刻の正室となりました。浅井三姉妹は、それぞれが政略結婚により名家に嫁ぎ、波乱に富んだ人生を送りました。戦国期を代表する姉妹といえます。



浅井三姉妹の母 お市の方 像／北の庄城址・柴田公園(福井県福井市)

解答… (3)

問題92

戦国期の「築城三名人」のひとりで、伊予今治城、伊賀上野城などの築城や、江戸城の縄張り（設計）などを行い、外様でありながら家康公の側近として仕え、伊勢津藩32万石の大名となった戦国武将はだれでしょうか？

- (1) 加藤清正 (2) 黒田長政
(3) 筒井順慶 (4) 藤堂高虎

解説

築城三名人のひとりとして有名な藤堂高虎は、近江国藤堂村の土豪の家に生まれました。羽柴秀吉の弟 秀長に仕え頭角をあらわします。家康公が秀吉の招きで上洛したときには、作事奉行として聚楽第の邸内に家康公の屋敷を設けています。「文禄・慶長の役」に出陣し戦功をあげました。武断派のひとりで家康公と親交を結び、その親交は生涯にわたり続きます。「関ヶ原の戦い」では東軍（家康方）につき、大谷吉継隊と交戦しています。「大坂夏の陣」では徳川方として長宗我部盛親隊と激戦となりました。伊予今治藩主、後に伊勢 津藩の初代藩主となっています。外様大名でありながら、家康公の死後も秀忠・家光から信頼を得ました。



伊賀上野城(三重県伊賀市)

解答… (4)

問題93

家康公の五男 信吉は、滅亡した母(於都摩)の実家の家名を引き継ぎました。信吉が継いだのはどの戦国大名の家でしょうか？

- (1) 今川家 (2) 武田家
(3) 長宗我部家 (4) 北条家

解説

家康公の五男 信吉は、武田の家名を継ぎました。家康公と武田家との関係は非常に深いものがあります。長年の抗争の結果、武田家は滅び、甲斐国は家康公が領有しました。大久保長安などの武田家遺臣は、後に家康公を大いに支えることとなります。天正10年(1582)、武田家が滅亡するとき、徳川に味方したのが武田親類衆の重鎮 穴山梅雪でした。その梅雪の養女 於都摩と家康公の間に生まれたのが信吉です。家康公が常陸國水戸25万石において、武田家の名跡を信吉に継がせたのは自然な流れだったといえるでしょう。信吉はわずか21歳で亡くなりますが、信吉の家臣の多くは後の頼房(家康公の十一男)が藩主となった水戸藩に仕えることとなりました。



武田氏の居館「つづ じ が さき かた」跡に建つ武田神社
(山梨県甲府市)

解答… (2)

問題94

家康公の九男は、元和元年(1615)、ある大名の娘春姫を正室に迎えました。春姫の父はだれでしょうか？

- (1) 浅野幸長 (2) 加藤清正
(3) 福島正則 (4) 細川忠興

解説

家康公の九男 義直は、浅野幸長の娘 春姫を正妻として迎えました。義直は幼少の頃、家康公より甲斐国25万石を拝領しますが、実際の領国経営は、城代の平岩親吉が行っていました。慶長12年(1607)、尾張国 清須に転封します。親吉も犬山城主となって義直の後見役を続けました。家康公は東海道の要の地である名古屋に天下普請で名古屋城を築き、慶長17年(1612)から「清洲越し」を行います。「大坂冬の陣」の翌年である慶長20年(1615)4月、名古屋城において義直と春姫の婚儀が行われました。婚姻を見届けた家康公は、その後、京都の二条城を経て「大坂夏の陣」へと出陣したのです。



春姫が輿入れした名古屋城(名古屋市中区)

解答… (1)

問題95

家康公の十男は、元和3年(1617)、ある大名の娘八十姫を正室に迎えました。八十姫の父はだれでしょうか？

- (1) 浅野幸長 (2) 加藤清正
(3) 福島正則 (4) 細川忠興

解説

家康公の十男 賴宣は、異母兄である武田信吉が死去したため、わずか2歳で遺領の常陸水戸20万石を継ぎました。その後、駿河国・遠江国および東三河の50万石に転封され、「大坂冬の陣」で初陣を飾ります。元和3年(1617)、加藤清正の娘 八十姫を正室に迎えました。そして元和5年(1619)、19歳で紀伊55万石への転封を命じられたのです。賴宣は初代和歌山藩主として和歌山城の改築、城下町の整備など藩政の基礎を築きました。八十姫は藩祖の御簾中として50年を過ごし、寛文6年(1666)に66歳で亡くなりました。夫婦仲は睦まじかったと伝えられています。



八十姫が輿入れした和歌山城(和歌山県和歌山市)

解答… (2)

問題96

家康公は孫の和子(秀忠の五女)と後水尾天皇との婚姻を決めていました。家康公死後の寛永6年(1629)、二人の間に生まれた娘で、第109代天皇として即位した女性天皇はだれでしょうか？

- (1) 桜町天皇 (2) 東山天皇
(3) 明正天皇 (4) 桃園天皇

解説

秀忠と於江の五女である和子は後水尾天皇の女御として入内し、後に中宮となりました。後水尾天皇との間に二男五女をもうけましたが、2皇子は共に早世しています。寛永6年(1629)、朝廷と幕府との対立が表面化した「紫衣事件」が起きました。同年、後水尾天皇は突然譲位し、東福門院(和子)の娘、第二皇女 女一宮が内親王宣下を受けて即位し、第109代 明正天皇となりました。奈良時代の称徳天皇以来859年ぶりの女性天皇でした。将軍家を外戚とした唯一の女性天皇でもありました。即位したときはわずか5歳、明正天皇の在位中は父 後水尾上皇による院政が敷かれました。



徳川和子(東福門院)肖像／光雲寺 藏(京都市左京区)

解答… (3)

問題97

戦国時代、戦国武将たちの間に広まり、政治的にも活用された文化のひとつに「茶の湯(茶道)」があります。千利休の後継者で、秀吉と家康公の茶頭を務め、「織部流」の祖となった茶人でもある武将(大名)はだれでしょうか?

- (1) 小堀政一
(2) 古田重然
(3) 本阿弥光悦
(4) 松井有閑

解説

古田重然は古田織部の名で知られる千利休の後継者です。また利休七哲のひとりに数えられました。二代将軍 秀忠の茶の湯の指南役も務めています。茶器や作庭、建築などに独自の美意識を發揮し、今日でも織部が好んだ美濃焼の茶器は「織部」として人気があります。武人としては、「関ヶ原の戦い」や「大坂の陣」において徳川方として参戦しました。しかし、「大坂の陣」において、徳川方の情報を大坂城内に矢文で知らせたとの嫌疑を受け、奇しくも師の利休同様、切腹を命じられました。



南宗寺(大阪府堺市)／枯山水庭園(国の名勝)は古田織部作と伝わる。

解答… (2)

問題98

「大坂の陣」を終え、「元和偃武」を成し遂げた家康公は、翌 元和2年(1616)、朝廷より最高位の官職である太政大臣に任じられました。武家としては4人目の栄誉でした。

次のなかで、太政大臣に任じられていない武家はだれでしょうか?

- (1) 足利義満
(2) 織田信長
(3) 平 清盛
(4) 豊臣秀吉

解説

太政大臣は律令制度に基づく、我が国独自の官職です。武家としては平清盛、足利義満、豊臣秀吉が任命されています。意外と思われますが織田信長は右大臣の任官にとどまっています。徳川将軍家からは、家康公のほか、秀忠、家斉が就任しています。十一代将軍の家斉は将軍在位40年に及んだ時点で太政大臣を付与されました(最終的な将軍在位期間は50年)。なお、明治期に入り、公家出身の三条実美が太政大臣に任命されました。明治天皇の代行者としての役割を期待されたものでした。明治12年(1879)、内閣制度の発足とともに太政大臣の官職も廃止され、大友皇子以来、1,200年以上に及んだ歴史に幕を閉じました。



織田信長像／
清洲古城跡公園
(愛知県清須市)

解答… (2)

問題99

次のなかで、家康公より早く亡くなった戦国武将はだれでしょうか？

- (1) 今川氏真 (2) 上杉景勝
(3) 織田信雄 (4) 毛利輝元

解説

家康公は、元和2年(1616)に享年75歳で薨去しています。江戸幕府を開いて平和の世を築き、天寿を全うしたといえます。一方、戦国時代を家康公とともに生きた大名たちの生涯をみると、今川義元や武田勝頼、織田信長、明智光秀、石田三成など戦死や横死した武将が少なくありません。半面、最終的に家康公に従った上杉景勝、毛利輝元、織田信雄らは長寿を得ています。今川氏真は「桶狭間の戦い」以降、家康公と対立しますが今川家滅亡後は家康公に恭順しました。氏真是享年77歳と長寿を全うしましたが、家康公より2年前に死去しています。



今川氏真が家康公傘下で城主となった牧野城
(諫訪原城より改称)跡(静岡県島田市)

解答… (1)

問題100

最後の問題です。戦国時代の始まりから、平和の世の始まりを意味する“元和偃武”まで、武将や大名どうしが武力で相争う戦国時代は約何年続いたのでしょうか？

- (1) 100年 (2) 150年
(3) 200年 (4) 250年

解説

戦国時代の“始まり”は一般的には「応仁の乱」と言われます。応仁元年(1467)に京都で勃発し、全国に波及していきました。戦国時代の“終わり”については諸説ありますが、家康公は「大坂夏の陣」で豊臣家を滅ぼし、徳川幕府に対する敵対勢力がなくなった慶長20年(1615)をもって、戦乱の世の終焉を宣言しています。家康公は朝廷に上奏し、元号を平和の始まりを意味する「元和」に改元しました。「応仁の乱」勃発から148年。家康公は戦国時代のど真ん中に生まれ、75年の生涯をかけて戦国の世の扉を閉じ、天下太平の世の新たな扉を開いたのです。



徳川家康 像／岡崎城公園(愛知県岡崎市)

解答… (2)